

目次一覽(全)

一九六一年(昭和三十六年)

創刊号(昭和三十六年三月十五日発行)

第一号を皆さまに送る

古寺新春

発刊を御祝いして

小田原城宝永天守閣

―再建の疑問―

刀剣夜話―伊賀仇討の刀―

民俗探訪・子供るす

曾我兄弟仇討の発心

小田原旧町散歩

発刊に寄せて

曾我の里

伊豆の伝説・栗の長者

考古学教室・縄文土器のはなし

漢詩の旅

当て言葉

難波 明

岸 達志

田辺 一雄

中野敬次郎

橋本整之介

木村 博

穂坂 辰巳

滝口 伊将

浅見 靈風

神保 栄

後藤 江村

立木 望隆

井上 英一

談史原小田 3月15日 発行 創刊号

古寺新春

岸 達志

寒署であつて、何処かへ案内しなければならぬ。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

あつた。新しく見る大塚は、昔の姿と違ふ。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。小田原の古寺新春の巻は、この一年の歴史を振り返る。

第二号(昭和三十六年九月十六日発行)

現代語訳・小田原大秘録(二)

松ノ木火事(永塚雷電社)

第三回史跡巡り(鎌倉)

長興山と鉄牛禅師

小田原周辺の遺跡分布とその概要

―縄文式文化時代について―

山伏塚

石井富之助

内田 武雄

岸 達志

蓑田 長平

橋口 尚武

穂坂 辰巳

第三号（昭和三十六年十月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（二）

小田原藩政と報徳仕法覚（二）

尊徳祭所感

小田原周辺の遺跡分布とその概要

―縄文式文化時代について②―

石井富之助

古屋 安定

米山 要助

橋口 尚武

風外上人と定光院の末路（二）

穂坂 辰巳

一九六二年（昭和三十七年）

第六号（昭和三十七年一月十五日発行）

年頭所感

明治の実話

小田原謡曲連合会

新春を迎えて

史談会に望む

道祖神とどんどん焼き

外郎の虎と早雲寺の虎

鈴木 十郎

落合 信一

井上 英一

浅見 靈風

蓑田 長平

内田 武雄

中野敬次郎

第七号（昭和三十七年二月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（五）

風外上人と定光院の末路（三）

外郎の虎と早雲寺の虎（二）

須藤町呼称の由来

石井富之助

穂坂 辰巳

中野敬次郎

永田 清助

第五号（昭和三十六年十二月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（四）

小田原藩政と報徳仕法覚（二）

小田原周辺の遺跡分布とその概要

―縄文式文化時代について④―

石井富之助

古屋 安定

橋口 尚武

第八号（昭和三十七年三月十五日発行）

特輯号

春の史跡巡り解説

中野敬次郎

第九号（昭和三十七年四月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（六）

国府海の開発と山崎金五右衛門

移り変る風俗

清浄観八景のことども

紹太寺清浄観八景（漢詩）

石井富之助

内田 武雄

小泉吉之助

田代 道弥

釈 木 庵

玉伝寺の位置

視聴覚教育の先駆者井上久松翁を偲ぶ

こけらおとし

清水 耕造

井上 英一

第十二号（昭和三十七年七月十五日発行）

北海道の開拓者大友亀太郎

無題

随筆・会社乗っ取り騒動の巻

大塩平八郎「指名手配」状

内田 武雄

古屋 安定

井上 英一

第十号（昭和三十七年五月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（七）

大黒屋の話

医王山正見寺の由来

人間を魅した私の伯父さん

小田原昔話（日向屋敷・馬車・人力車）

願いを箱にこめて

一つの提案

石井富之助

永田 清助

井上 英一

内田 武雄

内田 武雄

浅見 霊風

浅見 霊風

第十一号（昭和三十七年六月十五日発行）

現代語訳・小田原大秘録（八）

無題

笠を御取り下さい

小田原昔話（秀吉を羨む）

無駄我記

石井富之助

古屋 安定

古屋 安定

蓑田 天峰

第十四号（昭和三十七年九月十五日発行）

真説曾我兄弟

中垣謙斉を偲ぶ（二）

随筆・会社乗っ取り騒動③

中野敬次郎

蓑田 長平

井上 英一

第十五号（昭和三十七年十月十五日発行）

真説曾我兄弟(二)

中野敬次郎

中垣謙斎を偲ぶ(三)

蓑田 長平

MRAアジアセンター見学記

随筆・会社乗っ取り騒動④

井上 英一

報徳祭に参じて

清水専吉郎

怪異綺談

門松 利平

第十六号(昭和三十七年十一月十五日発行)

真説曾我兄弟(三)

中野敬次郎

中垣謙斎を偲ぶ(四)

蓑田 長平

随筆・会社乗っ取り騒動⑤

井上 英一

第十七号(昭和三十七年十二月十五日発行)

真説曾我兄弟(四)

中野敬次郎

山県有朋の晩年とその死①

勝野 憲一

旅で見た「下曾我村郷土史」を惜しんで

星野喜久雄

一九六三年(昭和三十三年)

第十八号(昭和三十三年一月十五日発行)

新春所感

鈴木 十郎

元旦の御挨拶

井上 英一

臼と御神体

内田 武雄

永祿の昔を今に

杉崎 正五

偶感一つ

安部 竜巖

私の歴史観

浅見 霊風

寝正月

木村 博

正宗十哲

橋本整之介

三つの願

八十一老比丘

小田原市郷土史研究への一動向

杉山 康輔

第十九号(昭和三十三年二月十五日発行)

真説曾我兄弟(五)

中野敬次郎

助郷について

輿水 正光

山県有朋の晩年とその死②

勝野 憲一

舟原の語源について

磯崎 憲次

第二十号(昭和三十三年三月十五日発行)

真説曾我兄弟(六)

中野敬次郎

井細田の歴史

星野喜久雄

小田原史談会会員名簿

第二十一号(昭和三十三年七月十五日発行)

生きている小田原城

真説曾我兄弟追記

中野敬次郎

一絃琴考

今田 無極

足柄平野農耕と古代

鐵道記念物（二）
文苑

額田喜代春

―千代台周辺について―

伝馬制度と税金

内田 武雄
清水專吉郎

小田原三者考

志波 太生

鐵道記念物（一）

額田喜代春

文苑

小田原における日本画家・上垣侯鳥画伯

望湖詩碑

会の発展についての希望

蓑田 長平

第二十二号（昭和三十八年八月十五日発行）

変貌した小田原

井上 康文

直情直言

蓑田 長平

古代のわが郷土

内田 武雄

石垣山観光開発への一私見

柴田 善生

第二十三号（昭和三十八年九月十五日発行）

古きものと新しきもの

蓑田 長平

直情直言

蓑田 長平

古代のわが郷土②

内田 武雄

話のひろば



文苑 小田原八景

仇討考

蓑田 天峰

話のひろば

おどり河原の物語
古代のわが郷土③

内田 武雄
青木あけみ

神社
第二十四号（昭和三十八年十月十五日発行）

第二十五号（昭和三十八年十一月十五日発行）

小田原における北原白秋

直情直言

古代のわが郷土④

話のひろば

飯泉八幡神社縁起伝説

彙報

蓑田 長平

内田 武雄

浅見 霊風

第二十六号（昭和三十八年十二月十五日発行）

故吉川英治氏と天守閣

国生みのこころ（詩）

柿・野菊

酒匂川・連歌橋

話のひろば

清水専吉郎

田尻 隼人

内山 雷軒

内田 武雄

一九六四年（昭和三十九年）

第二十七号（昭和三十九年一月十五日発行）

年頭の辞

万葉集恋愛歌と通い婚

随筆・足柄人西下の記

迎春漫筆

文苑

鈴木 十郎

内田 武雄

青木 重雄

浅見 霊風

第二十八号（昭和三十九年二月十五日発行）

崩れゆく美（詩）

実話・二宮尊徳と古屋キノと言う人

生麦事件余話

第二十九号（昭和三十九年三月十五日発行）

北村透谷

小田原を中心とした大正時代の政治家

第三十号（昭和三十九年四月十五日発行）

平成輔卿

古代からの我が郷土（懇田状態）

家紋への再認識

台湾少年の慰霊碑と蔣君輝先生

雑報（森梅溪画伯）

第三十一号（昭和三十九年五月十五日発行）

東と西

随筆・文化財と史談

小田原の乗物

鉄道記念物（三）

井上 康文

井上 英一

蓑田 長平

K・O 生

内田 武雄

浅見 霊風

酒井 温理

蓑田 長平

内田 四方蔵

額田喜代春

文苑

第三十二号（昭和三十九年六月十五日発行）

九華和尚について

名胡桃城のこと

鉄道記念物（四）

天王講に参加して

文苑

中野敬次郎

土田 正男

額田喜代春

井上 英一

第三十三号（昭和三十九年七月十五日発行）

江戸城明渡し

徳川政治と小田原足柄の史蹟

（郷土研究と歴史観の必要）

島津藩と秀吉の小田原征伐

八幡宮境内の石碑（井細田）

文苑

太田 康平

平原 勝郎

蓑田 長平

第三十四号（昭和三十九年八月十五日発行）

五日発行）

北村透谷の筆跡

井上康文先生の書簡

千代の寺と雑話

内田 武雄



芥五題

文苑

第三十五号（昭和三十九年九月十五日発行）

歴史の一齣

一夜城を公園に

人力車の発明

鉄道記念物（五）

文苑

柴田 善庵

蓑田 長平

杉崎 正五

額田喜代春

第三十六号（昭和三十九年十月十五日発行）

日本のみやこ・京都遷都論

小田原北条氏と鯉節

親鸞上人と箱根

飯泉観音金堂改築

文苑

三瀨 信吾

内田 武雄

第三十七号（昭和三十九年十一月十五日発行）

幻庵略譜

線香代の伝説

鉄道記念物（六）

箱根の雲助

立木 望隆

内田 武雄

額田喜代春

蓑田 長平

北条幻庵墓前祭

雛まつり考

浅見 靈風

第三十八号（昭和三十九年十二月十五日発行）

昭和新城の運命と小田原城 蓑田 長平

第四十一号（昭和四十年三月十五日発行）

二宮尊徳の真髓（巧妙な自由主義と社会主義との

「戦後」の意識

白鳥 省吾

並行家）

太田 康平

からすうり（詩）

鉄道記念物（七）

額田喜代春

「このしろ」の葬式

文苑

小田原と九州

内田 武雄

一九六五年（昭和四十年）

第三十九号（昭和四十年一月十五日発行）

迎春の辞 鈴木 十郎

二宮尊徳の真髓（巧妙な自由主義と社会主義との

箱根関所―御番所箱根資料館開設

興水 正光

並行家）②

太田 康平

小田原昔話（清水の郵便局）

江戸の正月

一口辞典（小田原北条氏の乱破）

水の悲劇で消えた古代集落（下曾我遺蹟の発掘）

小田原史談会規約

内田 武雄

小田原史談会 四十年役員

文苑

第四十号（昭和四十年二月十五日発行）

二月十一日を紀元節とする根拠について 蓑田 長平

「崇りの榎塚」消える

浅見 靈風

巳年を祝って

内田 武雄

いさい日記

星野喜久雄

俳諧寺一茶について

杉山 康輔

豆相史談会見学記

清水専吉郎

一九六六年（昭和四十一年）

第四十四号（昭和四十一年三月二十五日発行）

名代官 市丸又四郎高重事績

史実

本間薫山（口碑）米国行のみやげ話

花柳界より見た小田原

明峰記のしり馬に乗って

田島古墳発掘について

清水専吉郎

橋本整之介

神保 明峰

内田 武雄

杉崎 正五

第四十五号（昭和四十一年七月二十日発行）

二宮尊徳と寺門静軒

小田原史談会は前向き

昭和四十一年度史談会名簿

岸 達志

清水専吉郎

一九六七年（昭和四十二年）

第四十六号（昭和四十二年三月十日発行）

曾我氏の館跡

小沢家と小沢大明神

小田原における公共土木事業の大功労者

（川口広蔵・小沢衡平・湯川猪之三郎）

神保 栄

内田 武雄

太田 康平

第四十七号（昭和四十二年三月三十日発行）

地名と郷名―酒匂・和戸・足柄―

城内井戸について

道祖神の正月子供の行事について

一口辞典（問屋と人足）

立木 望隆

三津木国輝

神保 明峰

第四十八号（昭和四十二年六月三十日発行）

小田原藩所領高資料―天保八年―

うずわ釣り

小田原史談会総会報告

神保 栄

高梨 万三

清水専吉郎

第四十九号（昭和四十二年九月十日発行）

総世禪寺再建さる

伊豆韮山と山木遺跡見学

大震災の想い出

大松明を惜しむ

清水専吉郎

井上 英一

清水専吉郎

第五十号（昭和四十二年十二月二十日発行）

足柄山の五仙人

旧足柄下郡における寺子屋雑考

井上 英一

野頼 徳治

組のお稲荷さま（「山上稲荷社」）

宇野 応之

一九六九年（昭和四十四年）

第五十三号（昭和四十四年一月二十日発行）

新春のことば

鈴木 十郎

暦の話

井上 英一

小田原の消防と火災

清水専吉郎

お召列車今昔物語

額田喜代春

第五十四号（昭和四十四年七月二十日発行）

幻庵印判について―宝泉寺文書から―

立木 望隆

丹那トンネル秘話―大崩壊当時の思い出―

額田喜代春

大鳥別荘と御手植松

内田 武雄

四十四年度小田原史談会役員名簿

史跡めぐり

一九七〇年（昭和四十五年）

第五十五号（昭和四十五年一月二十日発行）

新春御慶

中野敬次郎

武田信玄史蹟巡り

加藤 誠夫

刀工清水久義の墓

中野敬次郎

北海道開拓者―大友亀太郎翁

内田 武雄

天守閣十周年と和歌集の想出

清水専吉郎

歴史随想―古瓦

中里 史子

関東大震災の思い出

額田喜代春

第五十六号（昭和四十五年三月二十日発行）

幻庵おぼへ書

立木 望隆

早雲寺殿廿一ヶ條

第五十七号（昭和四十五年六月二十日発行）

小田原戦役記念行事

立木 望隆

小田原島津の起り―訪杖記―

木村 博

「末期の水」をめぐって

威張山梅園見学

清水専吉郎

終人生後日譚

湯山 恒由

史談会規約

昭和四十四年度会計報告

一九七一年（昭和四十六年）

第五十八号（昭和四十六年一月二十日発行）

新建完成近き常盤木門

年頭のことば

中井 一郎

新春祝詞

小田原市の新指定文化財について

梅花詩一題（北条氏康）

ケンヤキ紙鳶考

天目山見学

中野敬次郎

中野敬次郎

難波 明

杉山 康輔

清水専吉郎

第五十九号（昭和四十六年六月十五日発行）

釜戸跡発掘当日の状态

小田原市の新指定文化財について 後編

曾我氏に付いて―曾我氏系図継の検討―

ことしの行事―昭和四十六年度事業計画

会のうごき

加藤 誠夫

中野敬次郎

内田 武雄

第六十号（昭和四十六年七月三十一日発行）

妙安寺近衛家三墳について

八王子紀行文

国学者歌人吉岡信之

和算の先生（内田惣五郎）

松本宇一駅長の殉難

文芸

ぼんおどりうた（江戸時代）

中野敬次郎

加藤 誠夫

清水専吉郎

神保 栄

額田喜代春

第六十一号（昭和四十六年十月十日発行）

白山大権現と番太郎

大稻荷神社について

大庭氏のこと

八丁河原

史談会のことども

文芸

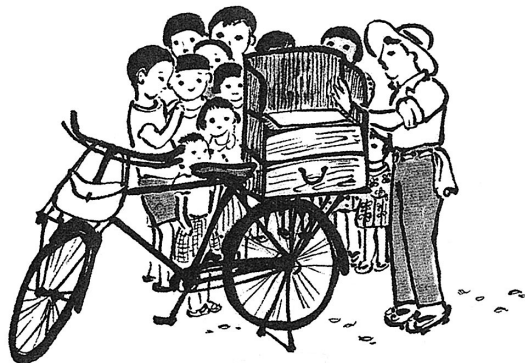
内田 武雄

新居 善作

神保 栄

柏木 次郎

鈴木 平八



一九七二年（昭和四十七年）

第六十二号（昭和四十七年一月三十一日発行）

年頭のことば

中井 一郎

年頭のあいさつ

中野敬次郎

光海出現永塚観音

内田 武雄

曾我の里

神保 栄

菊川周辺

酒匂郷土文化会

曾我の郎党鬼王団三郎

神保 西蔵

文芸

片浦支部便り

鈴木 平八

第六十三号（昭和四十七年五月三十一日発行）

原始・古代の小田原（上）

杉山 博久

若い衆の昔話

内田 武雄

神保民蔵氏急逝に思う

神保 西蔵

収入役時代

神保 栄

三浦半島第二回城址めぐり

中野敬次郎

規約改正と役員改選

新井薬師と北条氏

岸 達志

紀文

小林 泰助

文芸

第六十四号（昭和四十七年八月十日発行）

原始・古代の小田原（下）

杉山 博久

大友氏（上）

内田 武雄

後北条時代の相州蜜柑

清水専吉郎

満江御前―隠居した下屋敷

神保 西蔵

惣太あん

神保 栄

第六十五号（昭和四十七年十月十日発行）

法印快運と其の時代

加藤 誠夫

大友氏（下）

内田 武雄

横山一党の本拠城（上）

神保 西蔵

曾我物語考

神保 栄

片浦支部行事

鈴木 平八

穂坂辰巳さんのこと

穂坂 行雄

扇町の由来と井細田バイパス

星野喜久雄

第六十六号（昭和四十七年十二月二十日発行）

史跡を訪ねて―「くら街道」

竹見 龍雄

木瓜紋と大友氏

加藤 誠夫

大友氏と盛泰寺

内田 武雄

峯堅雅老師を悼む

岸 達志

横山一党の本拠城（下）

神保 西蔵

梅林と古墳

神保 栄

三浦七福神略縁起

三橋正四郎

一九七三年（昭和四十八年）

第六十七号（昭和四十八年一月二十日発行）

年頭のことば

中井 一郎

年頭のあいさつ

中野敬次郎

芝居と雨

神保 栄

気高くて親しみのある道了尊

加藤 誠夫

下曾我遺蹟（上）

内田 武雄

中村社 白髭明神奉射祭

竹見 龍雄

千代台の古瓦

富田 千春

小田原さんより「姓」を賜う

鈴木 平八

第六十八号（昭和四十八年八月一日発行）

ご挨拶

井上 英一

下曾我遺蹟（下）

内田 武雄

東京西郊史蹟めぐり

足柄山の聖天堂

神保 栄

第六十九号（昭和四十八年十月一日発行）

小田原城障子堀並びに畝堀考

難波 明

中井町（中村郷上ノ中村）史跡巡り

竹見 龍雄

一九七四年（昭和四十九年）

第七十号（昭和四十九年一月二十日発行）

年頭雑感

中井 一郎

年頭のあいさつ

井上 英一

幻庵北条長綱公生誕四八〇年祭

太田道灌と山吹姫

内田 武雄

「小田原史談会事始」の記

中里 史子

第七十一号（昭和四十九年八月十日発行）

古代のロマン―神話のなぞ（上）

資料

貞享三年曾我谷津村田畑差出帳

神田太郎吉

北原白秋のこと

中里 史子

宗我神社の由来記

神保 栄

第七十二号（昭和四十九年十月十日発行）

伊勢新九郎備中出身説を探る

立木 望隆

街道筋の助郷と其の変遷（1）

加藤 誠夫

曾我原の中村氏の由来

内田 武雄

道祖神と御祭りについて（上）

神田太郎吉

小田原名物塩辛の元祖

額田喜代春

一九七五年（昭和五十年）

第七十三号（昭和五十年三月十日発行）

街道筋の助郷と其の変遷（2）

加藤 誠夫

前川、梅沢、二宮史跡巡り

竹見 龍雄

第七十四号（昭和五十年七月十日発行）

創立二十周年にあたり

井上 英一

街道筋の助郷と其の変遷（3）

加藤 誠夫

旅の楽しさを増してくれる駅弁の話

額田喜代春

新田小史（上）

柏木 次郎

「史談小田原」特集号（昭和五十年七月発行）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか

内田 武雄

千代台の廃寺跡

富田 千春

坂下と芦子川―足柄郷考

立木 望隆

源頼朝石橋山に挙兵

加藤 誠夫

曾我兄弟の母「まんこう」御前考

穂坂 行雄

六本松・上町の二古道と前川の東海道は

竹見 龍雄

何時から通りはじめたか

竹見 龍雄

北条氏康の娘・今川氏真室早河殿への回想

杉山 博

後北条氏の寺院建立と名僧群

中野敬次郎

北条氏康前後の小田原文化

中島 亮一

小田原相州刀工に就いて

香川 智雄

大山街道・道標の調査より

佐野弥太郎

大久保忠隣の晩年

三津木国輝

相模の海の漁業を尋ねて

鈴木 平八

「精霊様も買物」と「蚤の波」

木村 博

神奈川県養蜂史

神保 西蔵

小田原駅今昔物語

額田喜代春

第七十五号（昭和五十年九月十日発行）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか

内田 武雄

真土事件をたずねて

神田太郎吉

新田小史（下）

柏木 次郎

前川方面の史跡をさぐる

穂坂 行雄

橘地区の民話

竹見 龍雄

第七十六号（昭和五十年十一月十日発行）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか（2）

内田 武雄

郷土の生んだ土の思想家

―二宮尊徳先生の遺蹟をたずねて―

穂坂 行雄

雑談（日記より）

井上 英一

橘地区の民話（2）

竹見 龍雄

一九七六年（昭和五十一年）

第七十七号（昭和五十一年一月十日発行）

文庫流れ

石井富之助

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか（3）

内田 武雄

「舞台」という地名

内田 武雄

頼朝の旗揚げ

橘地区の民話（3）

竹見 龍雄

雑談（日記より）

井上 英一

第七十八号（昭和五十一年三月十日発行）

曾我と澄禅上人

穂坂 行雄

お多賀さん

鈴木 平八

我が故郷

井上 英一

新田小史（中新田編）

柏木 次郎

伝説―虎御前

神田太郎吉

第七十九号（昭和五十一年六月十日発行）

通常総会にて新役員決まる

長興山観桜のしおり

田代 道弥

随筆

額田喜代春

軍歌の曾我兄弟

西山銈太郎

橘地区の民話（4）

竹見 龍雄

第八十号（昭和五十一年九月十日発行）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか（4）

内田 武雄

六花苑系譜の疑問について

伊東 浩

鉄（1）

柏木 次郎

随筆

額田喜代春

九州の大親分（侠客）上

井上 英一

第八十一号（昭和五十一年十一月十日発行）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか（5）

内田 武雄

鎌倉の古寺をたずねて

穂坂 行雄

酒匂鍛冶考

川瀬 春雄

随筆

額田喜代春

苦言・提言

一九七七年（昭和五十二年）

第八十二号（昭和五十二年二月十日発行）

小田原北条時代をのぞき見して

巳年

酒匂鍛冶考（2）

鉄（2）

九州の大親分（侠客）下

第八十三号（昭和五十二年六月十日発行）

小田原駅前今昔物語

第八十四号（昭和五十二年九月二十五日発行）

誠忠の碑

禅林奇談

鉄（3）

酒匂鍛冶考（3）

随筆

一九七八年（昭和五十三年）

第八十五号（昭和五十三年一月一日発行）

年頭のことば

迎春の辞

曾我兄弟と伝説の不動尊

加藤 誠夫

井上 英一

川瀬 春雄

柏木 次郎

井上 英一

額田喜代春

内田 武雄

西山銈太郎

柏木 次郎

川瀬 春雄

額田喜代春

中井 一郎

井上 英一

神保 西蔵

国鉄のトンネルと鉄橋の話

大衆演劇観劇考（一）

第八十六号（昭和五十三年二月二十五日発行）

北条時代の曹洞禅寺の建立と僧侶群

酒匂石器土器収集報告及び古代の酒匂考察（1）

第八十七号（昭和五十三年三月二十五日発行）

酒匂石器土器収集報告及び古代の酒匂考察（2）

随筆

随筆

第八十八号（昭和五十三年四月三十日発行）

酒匂石器土器収集報告及び古代の酒匂考察（3）

禅林奇談（二）

小便小僧

第八十九号（昭和五十三年五月三十日発行）

ごあいさつ

曾我岸地藏堂

額田喜代春
柏木 次郎

中野敬次郎

川瀬 速雄

川瀬 速雄

額田喜代春

川瀬 速雄

西山銈太郎

額田喜代春

中野敬次郎

西山銈太郎

人類不滅の魂（山行編） 1

柏木 次郎

昭和五十二年度事業報告

新春のあいさつ

中野敬次郎

第九十号（昭和五十三年七月三十日発行）

大衆演劇観劇考（二）

柏木 次郎

源頼朝石橋山拳兵八百年祭に想う

鈴木 平八

史談会五十三年度事業計画

PETA爪哇を行く（一）

西山銑太郎

岡崎方面史跡巡りと下見体験記

香川 政治

酒匂鍛冶考（4）

川瀬 春雄

随筆

額田喜代春

四方山嶺

額田喜代春

第九十一号（昭和五十三年九月三十日発行）

内田武雄氏を偲んで

富田 千春

忘れ得ない人（徳富蘇峰）

星野喜久雄

鎌倉期の線刻五輪塔の碑石発見

中野敬次郎

随筆

額田喜代春

往時の農民生活

香川 政治

第九十五号（昭和五十四年五月二十日発行）

昭和五十三年度事業報告

第九十二号（昭和五十三年十一月二十五日発行）

水郷潮来に散った悲劇の小田原志士

中野敬次郎

酒匂中宿の家号呼称と大正期の家並み

川瀬 速雄

新曲「石橋山」創作の経緯

松本 孝作

一九七九年（昭和五十四年）

国鉄四方山嶺

額田喜代春

第九十三号（昭和五十四年一月二十日発行）

第九十六号（昭和五十四年八月二十日発行）

19

第百一号（昭和五十五年八月二十日発行）

後北条氏秘話

—小田原城合戦にまつわる美女達2

千代国府考

小田原水道事件（足柄騷擾事件）追憶記

国鉄四方山嘯

夏の風物詩「朝顔」

中野敬次郎

古宮万寿夫

香川 政治

額田喜代春

柏木 次郎

第百二号（昭和五十五年十月二十五日発行）

後北条氏秘話

—北条氏秀（上杉景虎）・石垣山一夜城の悲劇1

中野敬次郎

中尊寺見聞記

木曾 正雄

東遠州地方の史跡巡り

香川 政治

国鉄四方山嘯

額田喜代春

一九八一年（昭和五十六年）

第百三号（昭和五十六年一月三十日発行）

新年あいさつ

後北条氏秘話

—石垣山一夜城の悲劇（山上宗二）

扇町風土記

中野敬次郎

中野敬次郎

星野 幸一

伊勢原の城址（二）

柏木 次郎

第百四号（昭和五十六年五月三十日発行）

定期総会の報告

後北条氏秘話（10）

—石垣山一夜城の悲劇（山上宗二）

千代台出土瓦

酒匂鍛冶考（7）

国鉄四方山嘯

元号と西暦の換算法

杉崎 正五

中野敬次郎

富田 千春

川瀬 春雄

額田喜代春

香川 政治

第百五号（昭和五十六年八月三十日発行）

後北条氏秘話（11）

—石垣山一夜城の悲劇（山上宗二）

酒匂川堤の金石文

酒匂雑記

自修学校物語

中野敬次郎

香川 政治

川瀬 春雄

西山銈太郎

第百六号（昭和五十六年十一月二十五日発行）

後北条氏秘話（12）

—天涯孤独の人・香沼姫

師長の古里へのいざない

中野敬次郎

内田 盛雄

一片の土器からロマンを求めて
自修学校物語2

柏木 次郎
西山銈太郎

姉妹都市今市市訪問の旅

香川 政治

一九八二年（昭和五十七年）

第百七号（昭和五十七年一月三十日発行）

新春ごあいさつ

中野敬次郎

後北条氏秘話（13）

―北条氏直没後の一門家臣の行方

中野敬次郎

自修学校物語3

西山銈太郎

師長の古里へのいざない2

内田 盛雄

第百八号（昭和五十七年五月二十五日発行）

後北条氏秘話（14）

―北条氏忠の周辺を洗う物語

中野敬次郎

五十七年度定期総会の報告

香川 政治

三多摩史跡めぐり

香川 政治

第百九号（昭和五十七年七月二十五日発行）

後北条氏秘話（15）

―北条氏邦と氏房の最後

中野敬次郎

岡崎・吉良方面史跡めぐり

香川 政治

五十七年度行事実施計画

香川 政治

第百十号（昭和五十七年十一月十五日発行）

後北条氏秘話（16）

―流転の姉・悲劇の妹―

中野敬次郎

自修学校物語4

西山銈太郎

萬治の義農下田隼人翁

川瀬 速雄

六本松峠の句碑

林 周平

鉄道関係四方山話

額田喜代春

第二回信州方面史跡めぐり

香川 政治

一九八三年（昭和五十八年）

第百十一号（昭和五十八年一月二十五日発行）

鈴木平八君を弔う

鈴木平八君なぜ逝った

中野敬次郎

鈴木平八君の死を悼む

松本 孝作

平八君と私

内田 一正

故鈴木平八さんとの思いで

渡辺弥太郎

思い出の人

山崎 悦子

鈴木平八氏を偲んで

下川茂三郎

鈴木さんの葬儀に参列して

富田 千春

平八さんを惜しむ

相沢 栄一

甲州方面名勝古社寺探訪の会

香川 政治

蚯蚓のたわごと

大井 諦玄

国鉄四方山嘯

額田喜代春

第百十二号 (昭和五十八年三月二十日発行)

千代台廃寺鬼瓦

内田 盛雄

甲州史跡めぐり

香川 政治

第百十三号 (昭和五十八年五月二十五日発行)

後北条氏秘話 (17)

―流転の姉・悲劇の妹 2

中野敬次郎



五十八年度定期総会の報告

杉崎 正五

浜松・浜名湖周辺史跡めぐり

香川 政治

第百十四号 (昭和五十八年八月二十五日発行)

後北条氏秘話 (18)

―小田原北条氏の全盛期を築いた陰の女性、

北条文化小田原から江戸に移る 1

中野敬次郎

久野川挽歌

星野 幸一

五十年目に咲いた蓮の花

朝倉 修一

環翠楼の自家用発電所

川瀬 速雄

第百十五号 (昭和五十八年十月二十五日発行)

後北条氏秘話 (19)

―北条文化小田原から江戸に移る 2

中野敬次郎

「陣が道」という名の古戦場

星野 幸一

古鏡考

大井 諦玄

お薬師さん

本場 大就

第四回市内仏像仏画見学

香川 政治

一九八四年 (昭和五十九年)

第百十六号 (昭和五十九年三月二十五日発行)

所感

中野敬次郎

後北条氏秘話(20)

―北条文化小田原から江戸に移る3

中野先生受彰について

北村透谷家譜の探究(1)

鉢形城訪問史跡めぐり

松本孝作さんの思いで

故額田喜代春さんを偲んで

古里望景

中野敬次郎

下川茂三郎

中野敬次郎

香川 政治

渡辺弥太郎

下川茂三郎

星野 幸一

第百十七号(昭和五十九年六月二十五日発行)

昭和五十八年度総会次第報告

北村透谷家譜の探究(2)

酒匂「はんべの宿」について

初詣会

我が郷土の、我が家の年中行事(一)

風流小田原の街歌

箱根環翠楼の笑話

中野敬次郎

中野敬次郎

川瀬 春雄

中野敬次郎

西山銈太郎

川瀬 速雄

川瀬 速雄

第百十八号(昭和五十九年八月二十五日発行)

北村透谷家譜の探究(3)

粹翰長早川の先陣

自叙伝①

中野敬次郎

川瀬 速雄

大井 諦玄

吉川英治記念館

遺偈

井細田の道祖神

―風化した小正月の伝統行事

高田喜久三
大井 諦玄

星野 幸一

第百十九号(昭和五十九年十一月二十五日発行)

北村透谷家譜の探究(4)

自叙伝②

新紙幣の新渡戸稲造博士

五千年の昔から現代まで

一九八五年(昭和六十年)

第百二十号(昭和六十年二月二十五日発行)

新春あいさつ

郷土史新資料(1)

『皇国地誌』足柄上郡玄倉村

我が郷土の、我が家の年中行事(二)

自叙伝③

第百二十一号(昭和六十年五月二十五日発行)

昭和五十九年度総会次第報告

北村透谷家譜の探究(5)

中野敬次郎

中野敬次郎

信州木曾路の旅

下川茂三郎

筑波山と尊徳遺跡めぐり

富田 千春

自叙伝④

大井 諦玄

第二百二十二号（昭和六十年七月二十五日発行）

報徳における分度の教え

奥津 亀吉

六十年年度総会

茶畑考

難波 明

我が郷土の、我が家の年中行事（三）

西山銈太郎

茶人野崎幻庵とその茶室葉雨庵

中野敬次郎

東海道五十三次の旅

下川茂三郎

実朝が酒匂を詠んだ歌から

川瀬 春雄

自叙伝⑤

大井 諦玄

なんと読む？珍しい墓碑

岡部 忠夫

第二百二十三号（昭和六十年十月二十五日発行）

自叙伝⑥

大井 諦玄

飯尾宗祇終焉の句について

林 周平

穴部用水

星野 幸一

千代廃寺古瓦は語る（三）

内田 盛雄

諸白小路について

難波 明

日中戦争と村のブラスバンド

星野 幸一

我が郷土の、我が家の年中行事（四）

西山銈太郎

『皇国地誌』足柄上郡中川村

高田喜久三

千代廃寺古瓦は語る（二）

内田 盛雄

由井正雪辞世の歌

岡部 忠夫

一九八六年（昭和六十一年）

第二百二十四号（昭和六十一年二月二十五日発行）

自叙伝⑦

大井 諦玄

第二百二十六号（昭和六十一年九月二十日発行）

千代廃寺古瓦は語る（二）

内田 盛雄

中垣謙斎真筆

樋口弥門のこと

小田原の埋れ木発掘帖

—大稻荷神社の御手洗から—

岡部 忠夫

小田原の辞世文学 1

中野敬次郎

東海道五十三次探訪のうち江尻追分宿の巻

高田喜久三

東海道五十三次宿場史跡めぐり（一）

下川茂三郎

隅田河畔に小田原の史跡を見る

西山銈太郎

―風外作の爺婆の石像―

相模国分寺？（海老名）鬼瓦は千代廃寺鬼瓦の

模作品

内田 盛雄

鶴？の答 鶴は誤り、正しくは鵠

松田 文雄

こぼれ話（「小田原産の稀産樹について」）

岡部 忠夫

預金封鎖と新円切替にまつわる話

岡部 忠夫

嘉永大地震の新資料について

中野敬次郎

和歌（鈴木貫介）

渡辺 その

会員消息（杉崎正五さん・武田敏治さん）

わが家の古き写真（隠岐威重氏蔵）

岡部 忠夫

一九八七年（昭和六十二年）

第二百二十七号（昭和六十二年一月十五日発行）

秋暉の書と碧巖の書

中野敬次郎

新年ごあいさつ

中野敬次郎

小田原の埋れ木発掘帖

小田原の辞世文学 2

中野敬次郎

板部岡江雪斎融成出自考（一）

斎藤圭太郎

鴨（和歌）

大井川川越遺跡

鈴木 貫介
高田喜久三

東海道五十三次宿場史跡めぐり（二）

下川茂三郎

我が郷土の、我が家の年中行事（五）

西山銈太郎

田中多一郎さんの『酒匂川と三角土手』を読んで

岡部 忠夫

足柄小学校の三つのシンボル

星野 幸一

郷土史新資料

稲子家文書 里見義頼書状について

中野敬次郎

西相模の石造物（一）府川の道祖神

岡部 忠夫

わが家の古き写真（吉崎ヨシ江氏蔵）

岡部 忠夫

第二百二十八号（昭和六十二年三月三十日発行）

会長中野敬次郎先生神奈川文化賞を受賞 高田喜久三

お祝いのことば

山橋敬一郎

ご受賞を祝して

竹中 芳一

中野先生と地震

和田 登

中野先生と尾崎士郎

岡部 忠夫

初詣 香取・鹿島神宮

和田 登

知られざる郷土の名僧・拔隊^{ばつすい}禪師

岸 達志

東海道五十三次宿場史跡めぐり（三）

下川茂三郎

板部岡江雪斎融成出自考（二）

斎藤圭太郎

我が郷土の、我が家の年中行事（六） 西山銈太郎

第六回東海道五十三次宿場史跡めぐり 和田 登

西相模の石造物（2）已待供養塔 岡部 忠夫

わが家の古き写真（杉山良一氏蔵） 岡部 忠夫

会員消息（中野敬次郎さん・奥津福太郎さん他）

わが家の秘蔵品（清水伊十良氏蔵） 岡部 忠夫

号外（昭和六十二年四月三日発行）

会長中野敬次郎先生逝去さる

弔辞 山橋敬一郎

弔辞 椎野 泰

第二百二十九号（昭和六十二年六月三十日発行）

故中野敬次郎先生追悼号

遺稿 伊勢者先生 中野敬次郎

故中野敬次郎先生略歴

中野先生の逝去に思う 杉崎 正五

中野先生を偲んで 相澤 栄一

来世へ飾る錦 石井富之助

中野先生を偲んで 杉山 博

小田原のエンサイクロペディスト 岸 達志

文化の伝承 椎野 泰

中野先生あれこれ 稲葉 博

中野先生と史談会 高田喜久三

中野先生と地震―小田原城について― 和田 登

戦後のひとこま 岡部 忠夫

昭和六十二年度総会

小田原とはどういう都市か（1）

北条時代の小田原 石井富之助

西相模の石造物（3）

山北町山西 金山社のご神体 岡部 忠夫

わが家の秘蔵品―アメリカ軍焼夷弾の蓋 武田 敏治

わが家の古き写真 西山銈太郎

第三百三十号（昭和六十二年九月十五日発行）

二宮尊徳の画像 岡部 忠夫

北海道開拓の先駆者 大友亀太郎 岡部 忠夫

二宮尊徳の俳句 和田 登

西相模の石造物（4）二宮尊徳の顕彰碑 岡部 忠夫

小田原とはどういう都市か（2）

江戸時代の小田原 石井富之助

兵隊こぼれ話 西山銈太郎

小田原地方の寺子屋（1）

庶民の読み書き能力 高田 稔

板部岡江雪斎融成出自考(三)

齋藤圭太郎

学徒勤労報国隊の思い出

村上 武夫

紀軽人について(一)

藤井 経勝

紀軽人作品見学会

高田喜久三

大磯史跡めぐり

星野 幸一

一枚の古き写真の思い出

相澤 栄一

一九八八年(昭和六十三年)

第三百三十一号(昭和六十三年一月十五日発行)

頌春

岡部 忠夫

望月香邨

樋口 昌香

宮部春虹

武田 敏治

小田原とはどういう都市か(3)

石井富之助

明治時代の小田原

石井富之助

小田原地方の寺子屋(2)

高田 稔

寺子屋の登場

齋藤圭太郎

板部岡江雪斎融成出自考(四)

齋藤圭太郎

扇町の幻景

星野 幸一

―地表改変の足跡と町並み形成―

藤井 経勝

紀軽人について(二)

富田 千春

足柄峠方面史蹟めぐり

西山銈太郎

兵隊こぼれ話

西山銈太郎

一枚の古い写真

高田喜久三

西相模の石造物(5)

岡部 忠夫

中井町境原の馬頭観音

岡部 忠夫

わが家の秘蔵品(杉崎正五氏蔵)

岡部 忠夫

第三百三十二号(昭和六十三年三月発行)

大正十一年四月の小田原駅前

岡部 忠夫

早野柏蔭先生

伊豆山格堂

小田原とはどういう都市か(4)

石井富之助

小田原駅開通から市政施行まで

石井富之助

小田原地方の寺子屋(3)

高田 稔

寺子屋師匠

高田 稔

小田原図書館と古文書

石井富之助

紹太寺に蟄居した稲葉正邦

加藤 利之

我が郷土の、我が家の年中行事(七)

西山銈太郎

西相模の石造物(6)

西山銈太郎

湯河原町鍛冶屋の道祖神

岡部 忠夫

阿夫利神社初詣記

初田 裕子

江戸後期の旅行ブーム「大山詣り」

高田 掬泉

大山阿夫利神社の豆腐塚

高田 掬泉

地価高騰余話

佐久間俊治

今は昔 小田原サノサ節

佐久間俊治

地名を歩く 春日山城
「よいしょ」と「せーの」

岡部 忠夫
岡部 忠夫

二宮尊徳翁
郷土関係の刊行物
北村透谷

第百三十三号（昭和六十三年六月発行）

天災は忘れた頃来る

小田原とはどういう都市か（6）

岡部 忠夫

忘れまい関東大震災

高田喜久三

交通都市小田原

石井富之助

西さがみの地震

大木 靖衛

明治の初め小田原に來りし英国海軍将校の談

小田原とはどういう都市か（5）

関 重忠

終戦後の小田原

石井富之助

小田原地方の寺子屋（4）

高田 稔

筆子と学習、寺子屋への就学率

高田 稔

小田原藩士以外の師匠

岡部 忠夫

西相模の石造物（8）

岡部 忠夫

「に」と「にか」

岡部 忠夫

大井町篠窪の道祖神

岡部 忠夫

門松茂夫氏を語る

兎 月人

相州上曾我村瑞雲寺開基争論記（一）

西山銈太郎

西相模の石造物（7）

岡部 忠夫

水戸、五浦史跡めぐり寸描

山口 貢

小田原市早川の正当石

和田 登

郷土の地名 久野・町田

岡部 忠夫

史跡めぐり 古稀庵など

和田 登

湯河原方面史跡めぐり

剣持 芳枝

昭和六十三年度総会

和田 登

兵隊こぼれ話

西山銈太郎

落穂集

岡部 忠夫

第百三十四号（昭和六十三年十月発行）

透谷を憶ふ

田熊 保行

一九八九年（昭和六十四年・平成元年）

北村透谷生誕百二十年を迎えて

高田喜久三

第百三十五号（昭和六十四年一月発行）

祖母北村ミナを憶う

堀越 真一

北条氏の三つ鱗紋

和田 登・岡部忠夫

大正始めのお濠端界限

相澤 栄一

年頭ごあいさつ

相澤 栄一

明治以後小田原劇場物語(一)

石井富之助

相州上曾我村瑞雲寺開基争論記(二)

西山銚太郎

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について(一)

小野 意雄

朝井閑右衛門

昭和初頭のころ小田原にて

隠岐 威重

鑄掛屋物語―お袋の味と鑄掛鍋―

星野 幸一

古都鎌倉史跡めぐり(一)

下川茂三郎

西相模の石造物(9)

頭上に蛇の庚申塔

岡部 忠夫

落穂集

岡部 忠夫

第百三十六号(平成元年三月発行)

大詔奉戴日の日新工業(株)小田原工場

岡部 忠夫

学徒勤労働員の記録 そして終戦迄

湯川 玲子

戦時下女学生だった私

奥田 贇子あき

太平洋戦争の終りと共に

千国 直子

イワシが獲れると伊豆半島が上昇する

友田 好文

明治以後小田原劇場物語(二)

石井富之助

相州上曾我村瑞雲寺開基争論記(三)

西山銚太郎

打ち縄・角鈎考(一)つのぼり

隠岐 威重

中井町井之口所在の春日局の一夜門について

飯田 悟郎

古都鎌倉史跡めぐり(二)

下川茂三郎

西相模の石造物(10)

山北町岸 文命西堤碑

落穂集

岡部 忠夫

第百三十七号(平成元年六月発行)

碧い海を眼下に福田正夫の詩碑が

江の浦の昌満寺に生れる

高田喜久三

明治以後小田原劇場物語(三)

石井富之助

千代台の産業 養蚕について

富田 千春

足柄平野のセーノ神さんの思い出

曾我 保夫

打ち縄・角鈎考(二)

隠岐 威重

私の早川村誌(八) 紀伊神社

青木 友吉

助郷の成立をめぐる

宇佐美ミサ子

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について(二)

紅蓮洞・坂本易徳(2)

小野 意雄

平成元年度総会

岡部 忠夫

第三百三十八号（平成元年九月発行）

北村透谷記念碑建立の経緯

岡部 忠夫

明治以後小田原劇場物語（四）

石井富之助

明治の大海嘯

石井福太郎

大正、昭和と著名な文人と交遊のあった

小田原御幸浜・養生館主 西村隆一氏に聞く（一）

岡部 忠夫

無二の友 小暮君を悼む

相澤 栄一

郷愁を呼ぶ小暮次郎さんの画集『小田原古きよき頃』

刊行される

岡部 忠夫

小田原画壇の恩人湯川先生のこと

兎 月人

中河与一碑の建立

高田喜久三

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について（三）

小野 意雄

終戦直前における県西地域の工場

野村 信

外人の見た小田原 『ヒースケン日本日記』より

城川 四郎

私の早川村誌（九） 紀伊神社のこと

青木 友吉

『死—仏教と民俗—』（木村博著）

岡部 忠夫

小台蓮乗寺観音堂落慶

飯田 悟郎

小田原保勝会のこと

郷土関係の刊行物

上州路への旅案内

和田 登

会員消息（和田登氏・青木友吉氏）

落穂集

岡部 忠夫

一九九〇年（平成二年）

第三百三十九号（平成二年一月発行）

新しき年号、新しき年

過ぎしもの、美しきもの

明治以後小田原劇場物語（五）

高田喜久三

年頭のごあいさつ

石井富之助

養生館主 西村隆一氏に聞く（二）

相澤 栄一

明治の大海嘯 2

岡部 忠夫

石井福太郎



み

「島寄り」という言葉

岡部 忠夫

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について（四）

小野 意雄

物置より龍が出た

川瀬 速雄

相州上曾我村瑞雲寺開基争論記（四）

西山銈太郎

氏子調（古川惣平氏蔵）

川瀬 春雄

酒匂神社のルーツについて

奥田 磧子

日本のペニシリン開発

相澤 栄一

蓮乗寺の仏像を拝して

丹沢の植物（2）イワシャジン、ヒトツバシヨウマ

紅蓮洞・坂本易徳（3）

城川 四郎

春日局と平川門

岡部 忠夫

会員消息（大井諦玄氏・清水伊十郎氏他）

落穂集

西山銈太郎

第百四十号（平成二年三月発行）

景観保持を一片の葉書に託した白秋

岡部 忠夫

明治以後小田原劇場物語（六）

石井富之助

養生館主 西村隆一氏に聞く（三）

岡部 忠夫

少年の頃の思い出話

相澤 栄一

静高の帽子―間中喜雄君を惜しんで―

杉山 長風

PWドクターへ沖縄捕虜記

間中 喜雄

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について（五）

小野 意雄

花園幼稚園…諸白小路

隠岐 威重

古宮萬寿夫氏を偲んで

富田 千春

不敵な人間句を残した穂坂志朗君

高田 掬泉

これからの俳句

佐藤 柳舎

丹沢の植物（3）レンゲシヨウマ

城川 四郎

小田原地方の方言

小田原史談会諸行事

郷土関係の刊行物

岡部 忠夫

落穂集

第百四十一号（平成二年六月発行）

落城を目前に出された感状

悲運の城主北条氏直

高田喜久三

小田原叢談（1）

「小田原という名を冠した事物」

「小田原相談」

石井富之助

養生館主 西村隆一氏に聞く（四）

岡部 忠夫

小田原の浮世絵（二）

岩崎 宗純

間中喜雄氏の「平和の碑」

(岸達志師・間中喜雄氏)

稲葉博君のこと

紅蓮洞・坂本易徳(4)

私の早川村誌(十)

紀伊神社埋経三筋壺について

ちよつぱりカルチャーショック

丹沢の植物(4) シロヤシオ

会員消息(中島まささん他)

平成二年度総会 会長に高田喜久三氏

落穂集

岡部 忠夫

隠岐 威重

岡部 忠夫

青木 友吉

佐久間俊治

城川 四郎

岡部 忠夫

岡部 忠夫

石井富之助

岩崎 宗純

橋本 阿揆

隠岐 威重

金原 左門

富田 千春

岡部 忠夫

蟬のこゑ(和歌)

材木屋綺談(1)

私の早川村誌(十二) 北条宗時の墓所

丹沢の植物(5) タンザワウマノスズクサ

相州曾我岸村と天津神社(一)

紅蓮洞・坂本易徳(5)

古墳遍歴①

郷土関係の刊行物

北条氏政・氏照公四百年遠諱法要

小田原合戦 開戦より落城まで

小田原史談会諸行事

鈴木 貫介

高田 掬泉

青木 友吉

城川 四郎

西山銈太郎

岡部 忠夫

飯田 悟郎

橋本 阿揆

一九九一年(平成三年)

第百四十三号(平成三年一月発行)

おひつじさまの多胡碑

多胡碑にかかわりのある郷土の人

尾崎喜佐雄と岡本隆徳

材木屋綺談(2)

小田原叢談(3)

「小田原駅周辺」

近代小田原百年小史稿(一)

岡部 忠夫

岡部 忠夫

岡部 忠夫

高田 掬泉

石井富之助

高田喜久三

山上宗二と千利休

岩崎 宗純

烏蘇里江・翠子の場合(二)

隠岐 威重

松永安左衛門翁の遺書

田中 精一

養生館主 西村隆一氏に聞く(六)

岡部 忠夫

地方史研究に注いだ情熱

川添 猛

―内田哲夫の死を悼む―

齊藤 理一

今ふりかえるシベリア抑留

城川 四郎

丹沢の植物(6)ズソウカンアオイ

城川 四郎

八王子合戦戦没者四百年忌追善供養

岡部 忠夫

小田原史談会諸行事

岡部 忠夫

落穂集

岡部 忠夫

第百四十四号(平成三年三月発行)

岡部 忠夫

相模國足柄下郡西筋町田村絵図

岡部 忠夫

小田原叢談(4)

岡部 忠夫

「松原神社界わい」

岡部 忠夫

「新道の話」

石井富之助



山上宗二と千利休(二)

岩崎 宗純

近代小田原百年小史稿(二)

高田喜久三

北条早雲知計のこと

高田喜久三

烏蘇里江・翠子の場合(三)

隠岐 威重

養生館主 西村隆一氏に聞く(七)

岡部 忠夫

今ふりかえるシベリア抑留②

齊藤 理一

相州曾我岸村と天津神社(二)

西山銑太郎

郷土関係の刊行物

西山銑太郎

小田原出身の新人作家・吉目木晴彦氏

岡部 忠夫

材木屋綺談(3)

高田 掬泉

箱根旧道をゆく

片岡永左衛門

小田原史談会諸行事

片岡永左衛門

丹沢の植物(7)クルマユリ

城川 四郎

第百四十五号(平成三年六月発行)

城川 四郎

伊藤博文ハルピン行を前に最後の写真

岡部 忠夫

小田原叢談(5)

岡部 忠夫

「酒匂橋今昔」

石井富之助

「初音新地」

高田喜久三

近代小田原百年小史稿(三)

高田喜久三

資料 小田原町各種組合

岩崎 宗純

小田原の浮世絵(三)

岩崎 宗純

井細田八幡神社の昭和史(一)

星野 幸一

材木屋綺談(3の2)

高田 掬泉

生れてから教員生活まで

飯田和ツヤ子

郷土のむかしばなし

西山銈太郎

『ばあばのくりごと』を読んで

隠岐 威重

今ふりかえるシベリア抑留③

齊藤 理一

丹沢の植物(8) フジチドリ

城川 四郎

紅蓮洞・坂本易徳(6)

岡部 忠夫

古墳遍歴②

飯田 悟郎

会員消息(中村静夫さん・小暮紀久子さん他)

岡部 忠夫

伊藤博文渡満記念写真

岡部 忠夫

『柳田国男』(木村博編) 紹介

岡部 忠夫

平成三年度総会

岡部 忠夫

第百四十六号(平成三年十月発行)

高田喜久三

一枚の写真が語る時代の移り変わり

高田喜久三

―板橋見付―

高田喜久三

小田原叢談(6)

石井富之助

「北へ流れ東へ流れる」

岩崎 宗純

小田原の浮世絵(四)

星野 幸一

井細田八幡神社の昭和史(二)

高田 掬泉

材木屋綺談(4)

高田 掬泉

カナダ環太平洋MRA国際会議に出席して

二宮 秀夫

資料 小田原町各種組合(二)

西山銈太郎

自修学校の創立者 大井龍跳

城川 四郎

丹沢の植物(9) タンザワイケマ

隠岐 威重

烏蘇里江・翠子の場合(四)

飯田 悟郎

伊勢詣りの宿案内

岡部 忠夫

古墳遍歴③

飯田 悟郎

紅蓮洞・坂本易徳(7)

岡部 忠夫

郷土関係の刊行物

岡部 忠夫

郷土誌目録紹介

岡部 忠夫

北条氏政・氏照墓前祭

岡部 忠夫

小田原市史刊行案内

岡部 忠夫

落穂集

岡部 忠夫

一九九二年(平成四年)

岡部 忠夫

第百四十七号(平成四年一月発行)

高田喜久三

三の丸小学校が誕生

高田喜久三

小田原叢談(7)

高田喜久三

「時の鐘」

石井富之助

「漁師の天気予報」

西山銈太郎

国府津での慶喜

西山銈太郎

一明治人の座右の銘

佐久間俊治

小田原の浮世絵(五)

岩崎 宗純

近代小田原百年小史稿(四)

高田喜久三

資料 冠婚葬祭新様式徹底方策 足柄町

カナダ環太平洋MRA国際会議に出席して(二)

二宮 秀夫

早川観音に川崎長太郎文学碑建つ

烏蘇里江・翠子の場合(五)

隠岐 威重

古墳遍歴④

飯田 悟郎

材木屋綺談(五)

高田 掬泉

紅蓮洞・坂本易徳(八)

岡部 忠夫

丹沢の植物(10) トゲキクアザミ

城川 四郎

小田原旧町名保存碑

小田原史談会諸行事

会員だより(高田掬泉さん)

岡部 忠夫

落穂集

第百四十八号(平成四年三月発行)

相模国足柄下郡府川村絵図

岡部 忠夫

小田原叢談(八)

「小田原人かたぎ」

「小田原水道」

「漁師の天気予報」補

近代小田原百年小史稿(五)

丹沢の植物(11) カワチブシ

小田原の浮世絵(六)

郷土誌目次紹介

百年前の主な出来事(明治二十五年)

私の早川村誌(十二) 村を潤した車川

母の白い脛

青木 友吉

材木屋綺談(六)

高田 掬泉

何処を撮ったものでしょうか

新刊紹介

古墳遍歴⑤

飯田 悟郎

学徒勤労働員の記録そして現在まで1

紅蓮洞・坂本易徳(九)

小田原史談会諸行事

岡部 忠夫

落穂集

第百四十九号(平成四年六月発行)

国府津三ツ俣遺跡―弥生時代中期から

平安時代に及ぶ大規模な集落跡―

小田原叢談(九)

「ランプとガスと電燈と」

岡部 忠夫

日華事変初の応召情景

岡部 忠夫

私の早川村誌(十三)『皇国地誌』を読んで

青木 友吉

酒匂の古寺福田寺、後の南蔵寺の所在について

川瀬 春雄

古文書講座(2)

婿入りにつき寺送り証文

内田 清

大井龍跳にまつわる逸話

西山 銈太郎

丹沢の植物(13) コハブナ・オオハブナ

城川 四郎

三月十日東京大空襲を省みて(一)

松本 巽

軍隊手帳

岡部 忠夫

古墳遍歴⑦

飯田 悟郎

露国・日露の役俘虜のこと 前編(2)

隠岐 威重

郷土誌目次紹介

新刊紹介

『焦げたはし箱』

岡部 忠夫

材木屋綺談(8)

高田 掬泉

紅蓮洞・坂本易徳(11)

岡部 忠夫

喰ひ残の搗栗錦の袋に

北條家高祖の守りの事(翁草より)

資料紹介 入営兵附添人全廃など

落穂集

岡部 忠夫

会員消息(宇佐美ミサ子氏・加藤水虹氏他)

小田原史談会諸行事等

一九九三年(平成五年)

第百五十一号(平成五年一月発行)

新装成った城山の跨線橋(青橋)

高田喜久三

小田原叢談(11)

「小田原のはつもうで」

「板橋のお地蔵さん」

石井富之助

資料紹介 砂糖及米穀特別配給

近代小田原百年小史稿(八)

高田喜久三

駅弁物語(一) 我が故郷山北の

三谷喜久満

川崎長太郎文学碑副碑建つ

百年前の主な出来事(明治二十六年)

露国・日露の役俘虜のこと 前編(3)

隠岐 威重

材木屋綺談(8の2)

高田 掬泉

盲目暦(二)

天野 宏

久野古墳と謎を語る山肌の石

小野 薫

三月十日東京大空襲を省みて(二)

松本 巽

古刹秘史 浄永寺

星野 幸一

丹沢の植物(14) ヒコサンヒメシヤラ

城川 四郎

紅蓮洞・坂本易徳(12)

岡部 忠夫

古墳遍歴⑧

飯田 悟郎

落穂集

岡部 忠夫

会員消息（鈴木一正氏・岸達志師他）

小田原史談会諸行事等

第百五十二号（平成五年三月発行）

小田原今昔

谷津から荻窪にかけての景観の変貌

岡部 忠夫

小田原叢談（12）

「大だいまつ」

「飯泉のお観音さん」

石井富之助

駅弁物語（二）

三谷喜久満

三月十日東京大空襲を省みて（三）

松本 巽

露国・日露の役俘虜のこと 前編（4）

隠岐 威重

弔辞（隠岐威重君）

内田四方蔵・野村鐵太郎

材木屋綺談（9）

高田 掬泉

明治の風流人、横山清男の旅日記

『熱海の藻屑』（一）

佐久間俊治

古文書講座（3）

離縁状は再婚許可証文

内田 清

郷土誌目次紹介

新刊紹介

『写真集 小田原の昭和史』

『神奈川の寺子屋地図』

弓削道鏡と千代観音屋敷

盲目暦（三）

古刹秘史 浄永寺（二）

丹沢の植物（15）ギンバイソウ

紅蓮洞・坂本易徳（13）

古墳遍歴⑨

落穂集

会員消息（相澤栄一氏他）

小田原史談会諸行事等

第百五十三号（平成五年六月発行）

史跡小田原城跡二の丸中堀（住吉堀）の調査を終えて

大島 慎一

小田原叢談（13）

「線香まつり」

石井富之助



弥一芋

高井風喜洞

我が家の古き写真

西山銑太郎

平安末期における箱根権現と酒匂郷との関わり

について

川瀬 春雄

やがて消え去る戦中戦前派の世代から

戦後生れの人々における言葉

高田喜久三

資料紹介 銃後奉公強化運動行事

盲目暦(四)

天野 宏

『熱海の藻屑』(二)

佐久間俊治

材木屋綺談(10)

高田 掬泉

古墳遍歴⑩

飯田 悟郎

三月十日東京大空襲を省みて(四)

松本 巽

落穂集

岡部 忠夫

会員消息(秋山光男氏・川瀬春雄氏他)

別堀・東学寺本堂に龍の天井絵完成

丹沢の植物(16) ウメウツギ

城川 四郎

紅蓮洞・坂本易徳(14)

岡部 忠夫

古文書講座(4)

金子借用の証文

内田 清

郷土誌目次紹介

新刊紹介

『小田原市史 史料編中世Ⅲ』『同近代Ⅱ』

『南足柄市史 資料編近世2』

岡部 忠夫

平成五年度総会

第百五十四号(平成五年十月発行)

井伏鱒二さんと伊奈半左衛門

岡部 忠夫

小田原叢談(14)

「私の家の年中行事」

石井富之助

やがて消え去る戦中戦前派の世代から

戦後生れの人々における言葉(二)

高田喜久三

古墳遍歴⑪

飯田 悟郎

別堀・東学寺の寅葉師さま

富田 千春

北條早雲と臨濟禅

中村 俊郎

露国・日露の役俘虜のこと 前編(5)

隠岐 威重

三月十日東京大空襲を省みて(五)

松本 巽

根府川ビーチ

磯千狩りの思い出と「なみのこ村」

星野 幸一

材木屋綺談(11)

高田 掬泉

『熱海の藻屑』(三)

佐久間俊治

古文書講座(5)

郷借証文

内田 清

雑誌紹介

新刊紹介

小田原出身の吉目木晴彦氏芥川賞受賞 岡部 忠夫

紅蓮洞・坂本易徳(15) 岡部 忠夫

丹沢の植物(17) ナツエビネ 城川 四郎

落穂集 岡部 忠夫

歴史読みこみ川柳 きくせん坊

会員消息(鈴木富美子さん・富田千春氏他)

小田原史談会諸行事等

一九九四年(平成六年)

第百五十五号(平成六年一月発行)

西相模三カ所の遺跡発掘

(小田原本町・南足柄塚田・山北湯坂) 岡部 忠夫

小田原叢談(15)

「続・私の家の年中行事」

「小田原のこま」 石井富之助

露国・日露の役俘虜のこと 前編(5の2)

三月十日東京大空襲を省みて(六) 隠岐 威重

材木屋綺談(12) 松本 巽

虜囚記① 高田 掬泉

『熱海の藻屑』(四) 藤野 明

資料「天災見聞」 佐久間俊治

古墳遍歴⑫ 飯田 悟郎

やがて消え去る戦中戦前派の世代から

戦後生れの人々における言葉(三) 高田喜久三

現代川柳 高井 喜雄

歴史読みこみ川柳2 きくせん坊

百年前の主な出来事(明治二十七年)

一枚の写真から 此の子等に孫が… 西山銈太郎

古文書講座(6)

田畑売買の証文 内田 清

会員消息(三津木国輝さん・山村武彦さん他)

紅蓮洞・坂本易徳(15の2) 岡部 忠夫

落穂集 岡部 忠夫

丹沢の植物(18) ウスギオウレン 城川 四郎

小田原史談会諸行事等

第百五十六号(平成六年三月発行)

特集北村透谷

北村透谷没して百年 短くて傷ましいその生涯と

輝かしい業績 高田喜久三

北村透谷君 島崎 藤村

故北村透谷 坂本 易徳

北村門太郎君逝く(「函東会報告誌」)

北村透谷君

戸川 残花

透谷の墓所

第百五十七号（平成六年六月発行）

透谷碑のこと

岡部 忠夫

漫言一則

北村 透谷

北村美那の書簡

盛会だった北村透谷百年祭

星野 天知

小田原叢談（16）

序文

平田 禿木

「だるま・けんやき・むかでたこ」

亡友を弔ふ

戸川 秋骨

三月十日東京大空襲を省みて（七）

石井富之助

虜囚記②

松本 巽

露国・日露の役俘虜のこと 前編（6）

藤野 明

歴史読みこみ川柳

隠岐 威重

『熱海の藻屑』（五）

さくせん坊

材木屋綺談（13）

佐久間俊治

古墳遍歴⑬

飯田 悟郎

古文書講座（7）

郷土誌目次紹介

岸 達志

頼母子講掛返証文

内田 清

雑誌目次紹介

『小田原の仏像銘文集』

岡部 忠夫

紅蓮洞・坂本易徳（16）

岡部 忠夫

丹沢の植物（19） ハコネラン

城川 四郎

内田盛雄氏を悼む

富田 千春

小田原史談会諸行事等

材木屋綺談（14）

高田 掬泉

「竹がえし」

石井富之助

現代川柳

高井 喜雄

露国・日露の役俘虜のこと 前編(7)

隠岐 威重

虜囚記③

藤野 明

平成世情提言 これでよいのか

高井風喜洞

古文書講座(8)

内田 清

米盗人八兵衛の獄門

佐々木康平

込山和勇氏の死を悼む

飯田 悟郎

冬の風・春の風

岡部 忠夫

古墳遍歴⑭

紅蓮洞・坂本易徳(17)

丹沢の植物(20) ヒトツバテンナンショウ

城川 四郎

小田原市下堀城址

岡部 忠夫

歴史詠みこみ川柳

さくせん坊

落穂集

岡部 忠夫

小田原史談会総会

第百五十八号(平成六年十月発行)

地震特集

片岡永左衛門

関東大震災

救ひの神の外科医と井戸掘

大地震の思い出話

相澤 栄一

関東大震災の雑想

市川 一郎

関東大震災の地震体験

富田 千春

過去を知り過去を生かそう

西山銈太郎

単なる自然災害だけではなかった関東大震災

高田喜久三

―いま省みるその歴史的意義―

岡部 忠夫

地震断想

集団の地震対策

―被災地中学校・高等学校の教訓

岡部 忠夫

今すぐ! 大地震を迎え討つ準備を

山村 武彦

小田原叢談(18)

石井富之助

「一文菓子屋と物売り屋」

岡部 忠夫

谷津に華嶽城址が

高田 掬泉

材木屋綺談(15)

折込み現代どどいつ

虜愁〔囚〕記④

高井風喜洞

紅蓮洞・坂本易徳(18)

藤野 明

丹沢の植物(21) クロテンコオドリギ

岡部 忠夫

古文書講座(9)

城川 四郎

中村原の善次郎の水車

内田 清

催しもの

一夕観

新刊紹介

北村 透谷

『小田原歴史地図』『時空』（4）

『随筆 禅のみち』

郷土誌目次紹介

落穂集

会員消息（市川一郎さん・川崎司さん他）

小田原史談会諸行事等

一九九五年（平成七年）

第百五十九号（平成七年一月発行）

小田原今昔

小田原駅前・幸町界限

小田原叢談（19）

「小田原の梅」

銀行支店長を務めた片岡永左衛門さん

折込み現代どどいつ

大久保忠良・徳大寺照子縁組覚書（1）

戊辰戦争後日譚

催しもの

酒匂川の水害

川邊本家物語り（1）

材木屋綺談（16）

岡部 忠夫

岡部 忠夫

相澤 栄一

石井富之助

岡部 忠夫

高井風喜洞

小野 意雄

高田喜久三

市川 一郎

曾我 保夫

孝行者藤右衛門尚清（1）

成島柳北「過小田原城在感」

露国・日露の役俘虜のこと 前編（8）

和田義盛の墓供養

虜愁記⑤

古文書講座（10）

炭屋七兵衛の約束手形

小田原文学館開館

北村透谷没後百年展

古墳遍歴⑮

紅蓮洞・坂本易徳（19）

丹沢の植物（22）ニッコウニョウタンボク

雑誌紹介

落穂集

小田原史談会行事

第百六十号（平成七年三月発行）

小田原今昔 本町界限

露国・日露の役俘虜のこと 前編（9）

小田原叢談（20）

石綿 勉

石井富之助

隠岐 威重

西山銚太郎

藤野 明

内田 清

飯田 悟郎

岡部 忠夫

城川 四郎

岡部 忠夫

相澤 栄一

新刊紹介

『町史へのいざない』『一句一景』

『神奈川の歌をたずねて』

古文書講座(11)

紺屋組合改革掟写し

大久保忠良・徳大寺照子縁組覚書(2)

震災日記

孝行者藤右衛門尚清(2)

歌人 源重之

川邊本家物語り(2)

益田信世の出獵記念写真から

材木屋綺談(17)

丹沢の植物(23) オオモミジガサ

古墳遍歴⑩

紅蓮洞・坂本易徳(20)

白河・那須方面探訪記

バス見学「初詣」に参加して

落穂集

小田原史談会行事

第百六十一号(平成七年七月発行)

特集戦後五十年

想いは深し五十年前

虜愁記⑥

遥かなる覇王城(1)

副官の戦死(1)

芒々五十年 かつて戈とりし事

トラク島の敗北(1)

生かされて 私の軍隊体験(1)

酒匂かそれとも酒匂か

小田原叢談(21)

「御感の藤」

震災日記(1)

震災余話

川邊本家物語り(3)

古文書講座(12)

造酒屋出店証文写

大久保忠良・徳大寺照子縁組覚書(3)

材木屋綺談(18)

街並点描

丹沢の植物(24) アオベンケイ

徳川時代平民的理想

孝行者藤右衛門尚清(3)

紅蓮洞・坂本易徳(21)

富田 千春

藤野 明

星野 幸一

佐々木勝衛

高田喜久三

加藤 一

磯部 正人

岡部 忠夫

石井富之助

片岡永左衛門

市川 一郎

川邊 昂

内田 清

小野 意雄

高田 掬泉

城川 四郎

北村 透谷

石綿 勉

岡部 忠夫

郷土誌目次紹介

新刊紹介

『小田原市史 史料編原始・古代・中世Ⅰ』

『北村透谷と小田原事情』

落穂集

小田原史談会総会

第百六十二号（平成七年十月発行）

追悼録

立木望隆氏と歴史

畏友立木望隆氏逝く

西山銚太郎さんを偲んで

飯田悟郎氏の追悼

余生を思う存分に生きた高井喜雄さん

第百六十三号（平成七年十一月発行）

占領下小田原の裏話

遙かなる覇王城（2）

副官の戦死（2）

新玉小学校爆撃

トラツク島の敗北（2）

生かされて 私の軍隊体験（2）

戦後五十年の夏

五十年前のある風景―機銃掃射の中で―

戦局窮迫下 東京帝国大学に開設の

科学研究補助技術員養成所

戦時学徒の落書

小田原叢談（22）

「小田原のみかんの名称」

材木屋綺談（19）

震災日記（3）

川邊本家物語り（3の2）

古文書講座（13）

油椀ぎ御免・冥加金請書

会報『小田原史談』ウオッチング

丹沢の植物（25）ウチヨウラン

徳川時代平民的理想（2）

小台蓮乗寺の浄水

新刊紹介

『開成町史 資料編古代・中世・近世Ⅰ』

『歌集 堤のほとり』

雑誌紹介

小田原史談会行事

武田 敏治

剣持 芳枝

川上 秀子

岡部 忠夫

石井富之助

高田 掬泉

片岡永左衛門

川邊 昂

内田 清

高田喜久三

城川 四郎

北村 透谷

尾崎 正

星野 幸一

佐々木勝衛

中川 禮子

加藤 一

磯部 正人

一九九六年（平成八年）

第百六十四号（平成八年一月発行）

私の早川村誌

紀伊神社木地椀と三筋壺

小田原叢談（23）

「小田原の滄浪閣」

遥かなる霸王城（3）

酒匂という地名の起こりについて

露国・日露の役俘虜のこと 後編（1）

生かされて 私の軍隊体験（3）

岩流瀬吊橋

震災日記（4）

材木屋綺談（20）

丹沢の植物（26） イトマキイタヤ

小田原城からの眺望

古文書講座（14）

名主連の職人賃金引下願書

川邊本家物語り（4）

孝行者藤右衛門尚清（4）

歌人 源重之（2）

紅蓮洞・坂本易徳（23）

街いろいろ

青木 友吉

石井富之助

星野 幸一

川瀬 春雄

隠岐 威重

磯部 正人

三谷喜久満

片岡永左衛門

高田 掬泉

城川 四郎

内田 清

川邊 昂

石綿 勉

日下部庄一

岡部 忠夫

新刊紹介

『小田原市史 別編城郭』

雑誌紹介

小田原史談会行事

第百六十五号（平成八年三月発行）

私の早川村誌

早川の製鉄遺跡

早川村の歴史の発掘に立派な業績を遺された

青木友吉さんを偲んで

小田原叢談（24）

「道徳教会」

材木屋綺談（21）

丹沢の植物（27） ヒナチドリ

震災日記（6） *5欠

露国・日露の役俘虜のこと 後編（2）

古文書講座（15）

ねずみ送り

司馬遼太郎さんを偲ぶ

北条氏政公の首塚

三浦と二宮尊徳

――三崎町の報徳仕法を通して――

岡部 忠夫

青木 友吉

岡部 忠夫

石井富之助

高田 掬泉

城川 四郎

片岡永左衛門

隠岐 威重

内田 清

岡部 忠夫

齊藤清一郎

歌人 源重之(3)

日下部庄一

街いろいろ

新刊紹介

『足柄平野の思い出』

『小田原市史 史料編近世Ⅰ』

小田原史談会行事

第百六十六号 (平成八年六月発行)

耕牧舎と須永伝蔵

小田原叢談(25)

「文庫流れ」

石井富之助さんのご逝去を悼む

石井富之助さんと北条時頼の書

土佐入道の塚

お茶の話

写真今昔

『遭難記実』

— 西南戦争に遭遇した一市民の記録

震災日記(7)

生かされて 私の軍隊体験(4)

材木屋綺談(22)

国府津丘陵

辻内和七郎

石井富之助

高田喜久三

岡部 忠夫

三谷喜久満

佐久間俊治

片岡永左衛門

磯部 正人

高田 掬泉



丹沢の植物(28) ハルユキノシタ

古文書講座(18)

幕末酒匂川のアユ漁

酒匂という地名の起こりについて(2)

孝行者藤右衛門尚清(5)

早川の集落

紅蓮洞・坂本易徳(24)

露国・日露の役俘虜のこと 後編(3)

羽根尾遺跡見学会

城川 四郎

内田 清

川瀬 春雄

石綿 勉

岡部 忠夫

隠岐 威重

街いろいろ

新刊紹介

『小田原藩の研究』

『三島にも戦争があった!』

郷土誌紹介

小田原史談会総会

第百六十七号 (平成八年十月発行)

足柄茶の始祖細谷力蔵さんを語る

小田原叢談 (26)

「実業奨励会と二葉会」

奇縁の体験

「さるかやど」のお稻荷さん

ソ連軍の侵攻

東満国境・小豆山の死闘 (1)

生かされて 私の軍隊体験 (5)

召集令状と兵事係のこと

赤い夕日が沈む

—私のシベリヤ抑留生活 前編①

露国・日露の役俘虜のこと 後編 (4)

落穂集

材木屋綺談 (23)

岡部 忠夫

三谷喜久満

石井富之助

城川 四郎

岡部 忠夫

松本 茂雄

磯部 正人

岡部 忠夫

木曾 正雄

隠岐 威重

岡部 忠夫

高田 掬泉

旧城内小校舎

丹沢の植物 (29) アマニユウ

秀吉の宣戦布告状

古文書講座 (17)

線香につき法授寺口上 (写し)

写真今昔 (蒸気軽便鉄道)

震災日記 (8)

歌人 源重之 (4)

元高知藩士の墓が東町呑海寺に

紅蓮洞・坂本易徳 (25)

街いろいろ

市町村史

『開成町史 資料編』

郷土誌等目次紹介

小田原史談会行事等

一九九七年 (平成九年)

第百六十八号 (平成九年一月発行)

日本画家 宮部春虹先生

— 中学時代の思い出 —

小田原叢談 (27)

「下田隼人と錦織神社」

城川 四郎

中村 俊郎

内田 清

岡部 忠夫

片岡永左衛門

日下部庄一

岡部 忠夫

岡部 忠夫

岡部 忠夫

武田 敏治

石井富之助

露国・日露の役俘虜のこと 後編(5) 隠岐 威重

生かされて 私の軍隊体験(6) 磯部 正人

赤い夕日が沈む―私のシベリヤ抑留生活

前編② 木曾 正雄

東満国境・小豆山の死闘(2) 松本 茂雄

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔① 市川 一郎

「宗我神社」

古文書講座(18) 内田 清

無宿仙右衛門一件につき差紙(写し) 高田 掬泉

材木屋綺談(24) 城川 四郎

丹沢の植物(30) ダケカンバ 片岡永左衛門

震災日記(9) 歌人 源重之(5) 日下部庄一

紅蓮洞・坂本易徳(26) 岡部 忠夫

長崎で大事に保存されている路面電車 熊澤 治男

街いろいろ

小田原史談会行事等

第百六十九号(平成九年三月発行)

赤岩賢三の目指した世界 稲永 光幸

小田原叢談(28) 石井富之助

「史跡保存の先達(小田原保勝会)」

写真今昔(隅櫓)

東満国境・小豆山の死闘(3) 松本 茂雄

赤い夕日が沈む―私のシベリヤ抑留生活

前編③ 木曾 正雄

生かされて 私の軍隊体験(7) 磯部 正人

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔②

「構内社」

『皇国地誌』足柄下郡堀之内村 市川 一郎

材木屋綺談(25) 和田 治助

富士を仰ぐ(桑原より) 高田 掬泉

丹沢の植物(31) ウラジロモミ 城川 四郎

馬喰の門ちゃん 岡部松實・曾我保夫

伊東梅太郎さんを偲んで 越川 俊雄

古文書講座(19) 伊東梅太郎さんを偲んで 越川 俊雄

儉約につき鴨宮村民の議定(写し) 内田 清

街並み

街いろいろ

新刊紹介

『私の早川村誌』―青木友吉遺稿集 岡部 忠夫

雑誌紹介

小田原史談会行事等

第百七十号（平成九年七月発行）

司馬遼太郎の死を惜しむ

高田喜久三

難波明氏と小田原史談会

三津木国輝

赤岩賢三の目指した世界（2）

稲永 光幸

ヤオマサ田嶋享氏の八百屋商道

植田 博之

青木友吉さんの『私の早川村誌』に思う

日下部庄一

小田原叢談（29）

「小田原風鈴」

「あゆの味」

石井富之助

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔③

市川 一郎

「宗我神社と神主」

市川 一郎

露国・日露の役俘虜のこと 後編（6）

隠岐 威重

青橋・小峰間開削の赤土は？

岡部 忠夫

生かされて 私の軍隊体験（8）

磯部 正人

前編④

木曾 正雄

東満国境・小豆山の死闘（4）

松本 茂雄

小田原ボランティアガイド協会発足

高橋 佐年

街並み

高田 掬泉

材木屋綺談（26）

高田 掬泉

足柄平野の眺望（久野丘陵より）

城川 四郎

丹沢の植物（32）ワチガイソウ

城川 四郎

古文書講座（20）

小田原海岸の花火

内田 清

成田の猪駒塚

岡部 忠夫

震災日記（10）

片岡永左衛門

孝行者藤右衛門尚清（6）

石綿 勉

紅蓮洞・坂本易徳（27）

岡部 忠夫

街いろいろ

『小田原市史 史料編現代』

郷土誌目次紹介

小田原史談会総会

第百七十一号（平成九年十月発行）

富士宝永の大爆発と降砂

富田 千春

酒匂という地名の読み

岡部 忠夫

赤岩賢三の目指した世界（3）

稲永 光幸

絵葉書より（町立小田原高女）

小田原叢談（30）

「村井玄斎と小峯紋弥」

石井富之助

小田原駅開通祝賀風景（台宿町）

青木友吉さんの『私の早川村誌』に思う

―日下部廣永について―

日下部庄一

街並み

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔④

「宗我神社の勸化」

年貢割付状にみる新屋村と中里村の合併

古文書講座(21)

報徳加入金写帳の特色

復原の「ういろう」

小田原の富士信仰(一)

西南の役百二十年―正還暦を迎えて

井口島・瀬戸田で出会った「徳本」の六字名号碑

材木屋綺談(26の2)

小田原城銅門復原

丹沢の植物(33) キバナウツギ

震災日記(11)

紅蓮洞・坂本易徳(28)

街いろいろ

新刊紹介

『開成町史 資料編近世2』

『炎の匠・小田原鋳物』

『戦後小田原50年史』

郷土誌文芸誌目次紹介

小田原史談会行事

一九九八年(平成十年)

第七十二号(平成十年一月発行)

源頼朝の旗揚げと土肥次郎実平

街なみ

赤岩賢三の目指した世界(4)

台宿町のガソリンポンプ

小田原叢談(31)

「川崎長太郎さんの抹香町」

酒匂川の川越

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑤

「曾我谷津の曾我氏とその末裔」

北條氏忠とお万の方について

ニューヨークの大根

古文書講座(22)

吉岡嘉(火)事と農民狂歌

小田原の富士信仰(二)

相模権守 源重之

露国・日露の役俘虜のこと 後編(7)

生かされて 私の軍隊体験(9)

東満国境・小豆山の死闘(5)

市川 一郎

石井 啓文

内田 清

岡部 忠夫

小林 謙光

川瀬 速雄

岡部 忠夫

高田 掬泉

城川 四郎

片岡永左衛門

岡部 忠夫

高橋 徳あつし

稲永 光幸

岡部 忠夫

石井富之助

勝俣淳一郎

市川 一郎

中村 俊郎

岡部 忠夫

内田 清

小林 謙光

日下部庄一

隠岐 威重

磯部 正人

松本 茂雄

材木屋綺談 (27)

高田 掬泉

早川から南町・城山方面への眺望

丹沢の植物 (34) オヒヨウ

城川 四郎

赤い夕日が沈む

—私のシベリヤ抑留生活 後編①

木曾 正雄

輸送船

鳥居金太郎

唄と兵隊

高田喜久三

街さまざま

新刊紹介

『秀吉の宣戦布告状』

岡部 忠夫

『私とすわの原』

小田原史談会行事

第百七十三号 (平成十年三月発行)

鴨宮を発祥とする星崎姓について

石井 啓文

小田原叢談 (32)

「畑の平の富士」

石井富之助

弔辞 (相澤栄一さんへ)

金原 左門

相澤栄一さんを偲んで

岡部 忠夫

震災日記 (12)

片岡永左衛門

丹沢の植物 (35) ビランジ

城川 四郎

移ろふ景観 (城山にて)

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑥

「曾我氏とその末裔 (続)」

小田原七福神について

市川 一郎

根府川の福踊り

安藤 康哉

古文書講座 (23)

小野 意雄

朝鮮通信使最乗寺の盗鶏を食う

内田 清

紅蓮洞・坂本易徳 (29)

岡部 忠夫

酒匂雑考三題

川瀬 春雄

新刊紹介

落穂集

岡部 忠夫

小田原史談会行事

第百七十四号 (平成十年七月発行)

昭和三十年頃の荻窪の風景

岡部 忠夫

高田喜久三さんを悼む

岡部 忠夫

わが生涯の師 高田喜久三氏に捧ぐ

向山 重忠

小田原叢談 (33)

「氏康柱」

石井富之助

「小田原最初の新民謡」

藩札の研究

谷口 得二

各藩で発行された紙幣の諸問題①

『小田原史談』総集編 第三集刊行

時宗の開祖一遍とその開基他阿真教①

岡部 忠夫

写真今昔（学び橋）

『大正小田原万華鏡』他
郷土誌文芸誌目次紹介

岡部 忠夫

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑦

小田原史談会総会

「曾我氏とその末裔（続）」

市川 一郎

露国・日露の役俘虜のこと 後編（7）

第百七十五号（平成十年十月発行）

石井富之助

小田原の富士信仰（三）

小林 謙光

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

瀬戸 長治

生かされて 私の軍隊体験（10）

磯部 正人

無惨、澎湖島の戦い（一）

瀬戸 長治

酒匂雑考三題（続）

川瀬 春雄

小田原叢談（34）

石井富之助

赤い夕日が沈む―私のシベリヤ抑留生活

木曾 正雄

「北原白秋の『雲の歌』」

岡部 忠夫

『神静民報』功労者

植田 博之

東欧四カ国を旅して（2）

岡部 忠夫

近田茂芳氏に聞く（上）

岩本 宜明

「曾我氏とその末裔（続）」

市川 一郎

名古屋の裁断橋遺跡

松本 茂雄

「旧阿弥陀堂」

市川 一郎

東満国境・小豆山の死闘（6）

岡部 忠夫

藩札の研究

谷口 得二

東欧四カ国を旅して

城川 四郎

各藩で発行された紙幣の諸問題（2）

小林 謙光

荻窪・久野方面を望む

足柄下郡中里村の起り

写真今昔（幸町）

石井 啓文

丹沢の植物（36）クロカンバ

相模権守 源重之

酒匂川の川越（続き）

日下部庄一

古文書講座（24）

内田 清

江戸・東京に小田原を探る！

勝俣淳一郎

仏師蓮池左内の注文状

片岡永左衛門

バスツアー随行記

小野 意雄

震災日記（13）

新刊紹介

小野 意雄

街いろいろ

小野 意雄

小野 意雄

小野 意雄

縄文時代を再現 土器の野焼き

田口 誠一

丹沢の植物(37) タンザワザサ

城川 四郎

透谷の書誌作成に打ち込む鈴木一正さん

岡部 忠夫

赤い夕日が沈む―私のシベリヤ抑留生活

後編③

木曾 正雄

東満国境・小豆山の死闘(7)

松本 茂雄

『神静民報』功労者

近田茂芳氏に聞く(下)

植田 博之

国府津の慶喜

岡部 忠夫

震災日記(14)

片岡永左衛門

古文書講座(25)

墓碑にみられる夫婦愛

内田 清

紅蓮洞・坂本易徳(30)

岡部 忠夫

街いろいろ

落穂集

岡部 忠夫

新刊紹介

郷土誌目次紹介

小田原史談会行事

一九九九年(平成十一年)

第百七十六号(平成十一年一月発行)

大正十年九月井細田八幡神社祭礼の記念写真

小田原叢談(35)

「平岡吟舟と小田原」

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑨

「菊川稲荷」

市川 一郎

赤い夕日が沈む―私のシベリヤ抑留生活

後編④

木曾 正雄

露国・日露の役俘虜のこと 後編(9)

隠岐 威重

藩札の研究

各藩で発行された紙幣の諸問題(3)

谷口 得二

江戸・東京に小田原を探る!

バスツアー随行記(二)

小野 意雄

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い(二)

瀬戸 長治

小田原の富士信仰(五)

小林 謙光

東満国境・小豆山の死闘(8)

松本 茂雄

紅蓮洞・坂本易徳(31)

岡部 忠夫

丹沢の植物(38) ヨコグラノキ

城川 四郎

震災日記(15)

片岡永左衛門

街さまざま

郷土誌文芸誌目次紹介

小田原史談会行事

第百七十七号 (平成十一年三月発行)

昭和二十年代の城東高校・二中 (白鷗中) の航空写真

勝俣淳一郎

小田原叢談 (36)

「怪物・鈴木善左衛門」

石井富之助

江戸・東京に小田原を探る!

バスツアー随行記 (三)

小野 意雄

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い (三)

瀬戸 長治

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑩

「菊川」等

市川 一郎

山王原村の起りと早雲の菊寿丸所領注文

石井 啓文

丹沢の植物 (39) ウスバサイシン

城川 四郎

荻窪・栄町方面を望む

小田原の富士信仰 (六)

小林 謙光

相模権守 源重之

日下部庄一

一句鑑賞 (高田掬泉)

剣持 芳枝

古文書講座 (26)

金次郎榊の免状と狂歌

内田 清

吉岡信之「地震日記」

谷口 得二

紅蓮洞・坂本易徳 (32)

岡部 忠夫

震災日記 (16)

片岡永左衛門

街さまざま

新刊紹介

『小田原の文化をよみなおす』

『火焼山』『新版黒砂糖・酢農法』

『古文書にみる山王原・網一色村史』

岡部 忠夫

小田原史談会が小田原市民功労賞を受賞

小田原史談会行事

第百七十八号 (平成十一年七月発行)

一枚の写真から 中川亦一さんに聞く

岡部 忠夫

私の青春①

菅沼 博

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔⑪

市川 一郎

小田原叢談 (37)

「箱根関所脇道」

石井富之助

小田原の富士信仰 (七)

小林 謙光

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い (四)

瀬戸 長治

露国・日露の役俘虜のこと 後編 (10)

隠岐 威重

吉岡信之「地震日記」 (二)

谷口 得二

片岡永左衛門夫妻の墓

岡部 忠夫

酒匂川徒歩渡の始まりと仮橋

石井 啓文

一句鑑賞（山口広子）

剣持 芳枝

沼代の馬頭観音考

石綿 勉

千代にて

丹沢の植物（40）シモバシラ

城川 四郎

古文書講座（27）

小作税請書と御城内新田

内田 清

箱根関所御要害地図 雛形（張抜）の事

小野 意雄

街さまざま

新刊紹介

『小田原市史 通史編近世』

『小田原地方の歴史をさぐる』

岡部 忠夫

郷土誌同人誌目次紹介

小田原史談会行事

小田原史談会総会

第百七十九号（平成十一年十月発行）

曾我山の砲兵陣地と下曾我駅の空襲

市川 一郎

小田原叢談（38）

「大磯の嶋立沢」

石井富之助

私の青春②

菅沼 博

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い（五）

瀬戸 長治

露国・日露の役俘虜のこと 後編（11）

隠岐 威重

酒匂史談（1）

川瀬 速雄

小田原の富士信仰（八）

小林 謙光

補追・酒匂川徒歩渡の始まりと仮橋

石井 啓文

脱出

天野 宏

戦後の小田原で

戸塚日出子

古文書講座（28）

六花苑の俳句を読む

内田 清

釜土（竈）を語る

小野 薫

南町から城山・箱根方面を望む

丹沢の植物（41）イワネコノメソウ

城川 四郎

相模権守 源重之

日下部庄一

震災日記（17）

片岡永左衛門



一句鑑賞（和田登仙）

剣持 芳枝

紅蓮洞・坂本易徳（33）

岡部 忠夫

街さまざま

新刊紹介

『国づくり物語―若き日の北条早雲』

『魔道に魅入られた男たち―揺籃期の考古学界』

『関左禅林の禅風―早川海蔵寺僧堂について』

郷土誌目次紹介

落穂集

岡部 忠夫

二〇〇〇年（平成十二年）

第百八十号（平成十二年一月発行）

岩太郎川 昔と今

市川 一郎

酒匂史談（2）

川瀬 速雄

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い（六）

瀬戸 長治

私の青春③

菅沼 博

通り（おしゃれ横丁）

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究（一）

―合巻作者柳水亭種清―

谷口 得二

露国・日露の役俘虜のこと 後編（12）

隠岐 威重

楽寿園「旧芝離宮庭園」の「謎の石柱」について

小野 意雄

朝鮮ビエ書留記

石綿 勉

城山方面を望む

丹沢の植物（42）ヒロハツリバナ

城川 四郎

古文書講座（29）

最乗寺道了尊と辻村甚八郎

内田 清

震災日記（18）

片岡永左衛門

街さまざま

郷土誌文芸誌目次紹介

落穂集

岡部 忠夫

一句鑑賞（大南テイ子）

剣持 芳枝

小田原史談会総会

第百八十一号（平成十二年三月発行）

井細田八幡神社の拝殿落成式

岡部 忠夫

追補・鴨宮を発祥とする星崎姓について

石井 啓文

小田原叢談（39）

「庄司甚右衛門と久米平内」

石井富之助

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い（七）

瀬戸 長治

私の青春④

酒匂史談(3)

歌人 源重之

落穂集

湯川治郎画伯回顧展

農具が語る生活史

「簀」「混ぜ棒」

一句鑑賞(内田 清)

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究(二)

写真今昔(日本電力小田原営業所前)

浜町方面を望む

古文書講座(30)

足柄の築城石を読む(加藤肥後守・松平土佐守を

巡って)

震災日記(19)

街さまざま

新刊紹介

『開成町史 通史編』

『歌集 新玉新道』

小田原史談会行事

菅沼 博

川瀬 速雄

日下部庄一

岡部 忠夫

小野 薫

剣持 芳枝

谷口 得二

城川 四郎

内田 清

片岡永左衛門

岡部 忠夫

第百八十二号(平成十二年六月発行)

江戸口見付跡の写真に思う

小田原の郷土史再発見

小田原の起りと「こゆるぎ」考

小田原の名産品

足柄地方最後の野鍛冶

古川惣平さんに聞く(一)

懐かしの地をたずねて

中村原郷(1)

酒匂史談(4)

露国・日露の役俘虜のこと 後編(13)

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究(三)

歌人 源重之

一句鑑賞(高田掬泉)

三宅克己スケッチブックより

古文書講座(31)

足柄の俳句額を読む(その評価方法と調査法に

ついて)

弥次喜多道中?

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い(八)

石綿 勉

石井 啓文

岡部 忠夫

早川 初枝

武田 敏治

遠藤 治郎

川瀬 速雄

隠岐 威重

谷口 得二

日下部庄一

剣持 芳枝

内田 清

岡部 忠夫

瀬戸 長治

岡部 忠夫

春爛漫（三の丸小学校）

丹沢の植物（44）イセアオスゲ

紅蓮洞・坂本易徳（34）

街さまざま

郷土誌文芸誌目次紹介

『おだわら―歴史と文化』（13）

『秦野市史研究』（19）

『波涛』（3）『時空』（16）

小田原史談会総会

第百八十三号（平成十二年十月発行）

酒匂川河口の空中写真をみて

小田原の郷土史再発見

酒匂川徒歩渡の終焉

小田原城石垣の刻印調査（一）

小田原叢談（40）

「小田原と宏道流」

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無惨、澎湖島の戦い（九）

足柄地方最後の野鍛冶

古川惣平さんに聞く（二）

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究（四）

城川 四郎

岡部 忠夫

岡部 忠夫

石綿 勉

石井 啓文

小野 薫

石井富之助

瀬戸 長治

早川 初枝

谷口 得二

中村原郷（2）

私の青春⑤

会員消息（小暮紀久子さん・小野意雄氏等）

古城巡記①

画家岡本秋暉の父政美

牛の頬（俳句）

酒匂史談（5）

言葉の壁

箱根口（箱根八里の起点）

丹沢の植物（45）シコクハタザオ

古文書講座（32）

近世江戸文学を読む（紀行、木版本の読み方）

歌人 源重之（年表）

片岡日記（20）

街さまざま

郷土誌目次紹介

『安思我良』（4）

新刊紹介

『歌集 蹈火』

小田原史談会行事

遠藤 治郎

菅沼 博

小栗 良英

岡部 忠夫

遠藤 治郎

川瀬 速雄

岡部 忠夫

城川 四郎

内田 清

日下部庄一

片岡永左衛門

岡部 忠夫

岡部 忠夫

二〇〇一年(平成十三年)

第百八十四号 (平成十三年一月発行)

史跡小田原城址

馬屋曲輪の試掘調査について

一枚の写真から

あの頃僕は少国民だった

補遺・尾崎亮司(一)

「小田原保勝会略記」碑に関連して

田辺港引揚回想①

現地の婦女子を引率して

小田原の富士信仰(続)

露国・日露の役俘虜のこと 後編(14)

丸う 田代勇輔さんに聞く

小田原かまぼこ今昔

古城巡記②

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究(五)

中村原郷(3)

酒匂史談(6)

古文書講座(33)

大雄山の杉林を見直す(竹本屋幸右衛門の買木から)

片岡日記(21)

大島 慎一

武田 敏治

岡部 忠夫

井上 尚

小林 謙光

隠岐 威重

早川 初枝

小栗 良英

谷口 得二

遠藤 治郎

川瀬 速雄

内田 清

片岡永左衛門

新刊紹介

『阿兄へ、妻へ夫へ―日清戦争の書簡集、

相田軍曹と早川村の人々』他

一句鑑賞(神山つとむ)

丹沢の植物(46) ムシカリ

小田原市板橋の景観

街さまざま

小田原史談会行事

第百八十五号 (平成十三年三月発行)

小田原の郷土史再発見

日本最古の水道「早川上水」

母校に証された昭和史の証

少年飛行兵 雲流るる果に

古城巡記③

補遺・尾崎亮司(二)

小伊勢屋の身代を揺るがせた小田原競馬場建設①

レイテ戦の別れ

田辺港引揚回想②

現地の婦女子を引率して

へ補遺へ五十年めの私の終戦

岡部 忠夫

剣持 芳枝

城川 四郎

石井 啓文

武田 敏治

小栗 良英

岡部 忠夫

金子 中二

井上 尚

―語り部として次代へ―

井上 尚

一句鑑賞（木曾シゲ子）

剣持 芳枝

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究（六）谷口 得二

片岡日記（22）片岡永左衛門

新刊紹介

『古文書にみる小田原の宿と酒匂川の徒歩渡』

岡部 忠夫

郷土誌文芸誌目次紹介

扇町方面を望む

丹沢の植物（47）ミスミソウ

城川 四郎

街さまざま

小田原史談会行事

第百八十六号（平成十三年七月発行）

江之浦地区の古い写真をみて

石綿 勉

小田原の郷土史再発見

日本最古の水道「早川上水」の仕組み 石井 啓文

小田原叢談（41）

「知られざる大家・沼田荷舟」

石井富之助

レイテ戦の別れ②

金子 中二

私の青春⑥

菅沼 博

補遺・尾崎亮司（三）

小田原競馬場建設②

古城巡記④

岡部 忠夫
小栗 良英

相模権守 源重之

日下部庄一

中村原郷（4）

遠藤 治郎

古文書講座（34）

竹本屋幸右衛門の実像を追う

内田 清

新刊紹介

『東泉禅話 第二集』

『小田原百景』

岡部 忠夫

一句鑑賞（朝倉修一）

剣持 芳枝

落穂集

岡部 忠夫

国道一号線（南町）

丹沢の植物（48）オオヤマザクラ

城川 四郎

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究（七）

谷口 得二

街さまざま

講演

「二宮尊徳と小田原」

斎藤清一郎

平成十三年度小田原史談会総会

第百八十七号（平成十三年十月発行）

千代・本立寺の板絵

石綿 勉

小田原の郷土史再発見

日本最古の水道は早川上水か小田原用水か

石井 啓文

レイテ戦の別れ③

金子 中二

江戸時代初期田島に穴居した風外慧薫禪師(一)

野地 芳男

一句鑑賞(森 正勝)

剣持 芳枝

「開成カルタ」の紹介

佐久間俊治

補遺・尾崎亮司(四)

小田原競馬場建設③

岡部 忠夫

私の青春⑦

菅沼 博

露国・日露の役俘虜のこと 後編(15)

隠岐 威重

惟喬親王伝説異伝

蓮沼 州子

酒匂史談(7)

川瀬 速雄

中村原郷の思い出(5)

遠藤 治郎

波多野一族の西南進出の夢

澤地 英

落穂集

岡部 忠夫

古城巡記⑤

小栗 良英

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究(八)

谷口 得二

古文書講座(35)

酒匂川の舟運(元禄期の反対運動を中心に)

内田 清

片岡日記(23)

片岡永左衛門

寸志という言葉の変容

岡部 忠夫

丹沢の植物(49)シロバナノヘビイチゴ

城川 四郎

街さまさま

新刊紹介

『小田原市史 通史編近現代』

『西さがみの詩びとたち』

岡部 忠夫

郷土誌文芸誌目次紹介

小田原史談会行事

二〇〇二年(平成十四年)

第百八十八号(平成十四年一月発行)

迎春あいさつ

山口 一夫

小田原の気象(一)

芦川 駿

江戸時代初期田島に穴居した風外慧薫禪師(二)

野地 芳男

山北の交通機関

岡部 忠夫

補遺・尾崎亮司(五)

小田原競馬場建設④

岡部 忠夫

小田原叢談(42)

「父子二代」

石井富之助

一句鑑賞(市川恵子)

剣持 芳枝

新屋稻荷神社「お白狐様御開帳」

山口 一夫

古城巡記⑥

小栗 良英

酒匂史談(8)

川瀬 速雄

中村原郷の思い出(6)

遠藤 治郎

私の青春⑧

菅沼 博

源重之について 係わり抄

日下部庄一

落穂集

岡部 忠夫

御休み処「角吉」

城川 四郎

丹沢の植物(50) クガイソウ

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究(九) 谷口 得二

古文書講座(36)

武田勝頼夫人の願文を読み直す(虚心中古文書に

あたる)

内田 清

片岡日記(24)

片岡永左衛門

水之尾の由来

澤地 英

新刊紹介

『小田原の郷土史再発見』

『歴史小説 明治小田原太平記』

郷土誌文芸誌目次紹介

岡部 忠夫

小田原史談会行事

馬屋・大腰掛範圍確認調査について 大島 慎一

小田原の郷土史再発見

小田原の郷土史再発見

「小田原用水」の復原では、小田原の歴史が

曲げられ、北条氏の事績が抹消されてしまう!

花の「ハナノキ」と

石井 啓文

小田原北条時代の「花ノ木町」について

補遺・尾崎亮司(六)

小田原城内高校と関わりある人びと①

一句鑑賞(山口広子)

酒匂史談(9)

古城巡記⑦

江戸時代初期田島に穴居した風外慧薫禪師(三)

中村原郷の思い出(7)

露国・日露の役俘虜のこと 後編(16)

新刊紹介

『人生、ゆうゆう』

『二宮尊徳とその弟子たち』

『小田原空襲』

『小田原市史 別編自然』

岡部 忠夫

文芸誌目次紹介

小田原史談会行事

第百九十号（平成十四年七月発行）

小田原史談会発足のころ

三津木国輝

小田原歴史見聞館と思い

石綿 勉

小田原の気象（二）

芦川 駿

補遺・尾崎亮司（七）

小田原城内高校と関わりある人びと②

岡部 忠夫

「道了大薩埵」の二つの碑（一）

高橋 佐年

私の青春⑨

菅沼 博

時代を映し出す作文二題

岡部 忠夫

江戸時代初期田島に穴居した風外慧薫禪師（四）

野地 芳男

酒匂史談（10）

川瀬 速雄

一句鑑賞（山崎悦子）

剣持 芳枝

露国・日露の役俘虜のこと 後編（17）

隠岐 威重

中村原郷の思い出（8）

遠藤 治郎

古文書講座（37）

湯本（荻窪）堰の工事期間は三年（郷土史の落し

穴にご用心）

内田 清

片岡日記（25）

片岡永左衛門

新刊紹介

『身近にある小田原の史跡 川東編』

『二丁田物語―一丁田の歴史と思い出』

『三嶋暦・相模国の弘暦網』

落穂集

講演

「小田原の郷土史再発見」

平成十四年度総会報告

第百九十一号（平成十四年十月発行）

写真から覗く民間の活力

―大正初期の幸町の町並みより―

小田原の郷土史再発見

三嶋暦・相模国の弘暦網（一）

―小田原に暦会所があった―

補遺・尾崎亮司（八）

小田原城内高校と関わりある人びと③

落穂集

「道了大薩埵」の二つの碑（二）

小田原叢談（43）

「小田原と謡曲」

一句鑑賞（鳥海壯六）

岡部 忠夫

岡部 忠夫

石井 啓文

石綿 勉

石井 啓文

岡部 忠夫

岡部 忠夫

高橋 佐年

石井富之助

剣持 芳枝

酒匂史談 (11)

川瀬 速雄

中村原郷の思い出 (9)

遠藤 治郎

土浦紀行

武田 敏治

私の青春^⑩

菅沼 博

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究 (十)

谷口 得二

小田原評定と制札をめぐる

澤地 英

片岡日記 (26)

片岡永左衛門

郷土誌案内

『安思我良』 (6)

『目で見る矢作の歴史』

岡部 忠夫

文芸誌案内

『時空』 (20)

岡部 忠夫

小田原史談会行事

二〇〇三年 (平成十五年)

第百九十二号 (平成十五年一月発行)

小正月のだんご・まゆだま

—聞き書きから知る物づくり—

石綿 勉

酒匂史談 (12)

川瀬 速雄

「高野山」参詣の記

小野 意雄

補遺・尾崎亮司 (九)

小田原藩の変遷^①

岡部 忠夫

三嶋暦・相模国の弘暦網 (二)

石井 啓文

露国・日露の役俘虜のこと 後編 (18)

隠岐 威重

一句鑑賞 (八嶋しづ江)

剣持 芳枝

四十年の奉仕活動 (降旗ツネ子さん)

石綿 勉

私の青春^⑪

菅沼 博

『前田夕暮の歌碑』を読んで

岡部 忠夫

小田原史談会行事

第百九十三号 (平成十五年三月発行)

小田原駅舎と周辺特集号

駅舎と周辺の情報抄

石綿 勉

古文書の手をさまよった随想

—特に漢字の異体字・略字について—

谷口 得二

人名にちなむ旧町名保存碑 (一)

澤地 英

補遺・尾崎亮司 (十)

小田原藩の変遷^②

岡部 忠夫

一句鑑賞 (市川恵子)

剣持 芳枝

三嶋暦・相模国の弘暦網 (三)

石井 啓文

小田原叢談 (44)

「小田原と歌舞伎」

石井富之助

酒匂史談 (13)

川瀬 速雄

中村原郷の思い出 (10)

遠藤 治郎

小田原提灯

秋沢 達雄

平成十五年度総会報告

小田原史談会行事

第百九十四号（平成十五年七月発行）

ご奉仕の新しい生命を戴いて

小野 意雄

文命西堤の謎を追う（一）

内田 清

小田原の郷土史再発見

石井 啓文

第百九十五号（平成十五年十月発行）

文武館創立と竹添進一郎

武田 敏治

改造中の小田原駅

川瀬 速雄

小田原駅西口方面の写真をみて

石綿 勉

酒匂史談（14）

秋沢 達雄

小田原映画文化シリーズ①

中村原郷の思い出（11）

遠藤 治郎

私のキネマ劇場五十年（川口啓介さんに聞く）

小田原提灯（二）

青木 良一

青木 良一

秋沢達雄さんにあかりの話を聞く

青木 良一

一句鑑賞（植松テル子）

剣持 芳枝

愛宕山附近の絵図をみて①

石綿 勉

小田原映画文化シリーズ②

私の青春⑫

菅沼 博

霧の中の御国座

秋沢 達雄

露国・日露の役俘虜のこと 後編（19）

隠岐 威重

小田原叢談（45）

一句鑑賞（高田掬泉）

剣持 芳枝

「小田原と落語」

石井富之助

人名にちなむ旧町名保存碑（二）

澤地 英

片岡日記（28）

片岡永左衛門

片岡日記（27）

片岡永左衛門

小田原提灯（三）

秋沢 達雄

史跡めぐり実施報告

小田原の郷土史再発見

講演会報告

植田又兵衛先生と小田原水道（早川上水）

江戸時代の小田原地方の酒

瀬戸 崎雄

石井 啓文

中村原郷の思い出 (12)

遠藤 治郎

酒匂史談 (15)

川瀬 速雄

牢獄と刑場についての一考察

澤地 英

私の青春⑬

菅沼 博

小田原史談会行事

落穂集

植田 博之

二〇〇四年 (平成十六年)

第百九十六号 (平成十六年一月発行)

お正月のこと

市川 一郎

申年生れの話

近賀喜久男

昭和十四年 商家の元旦

田中 豊 みのる

猿との出会い

田口 鏡子

開成町田中地区の正月行事

道祖神太鼓の思い出

井上 忠義

二宮金次郎の正月出奔

青木 良一

小田原駅アークロードの完成

小田原映画文化シリーズ③

私と映画―戦中、戦後の少年時代

植田 博之

私の青春⑭

菅沼 博

植田又兵衛先生と小田原水道 (早川上水)

②

石井 啓文

補遺・尾崎亮司 (十一)

小田原城廃城後の変遷

岡部 忠夫

一句鑑賞 (神山つとむ)

剣持 芳枝

元旦の朝、若水を汲む

石井 啓文

酒匂史談 (16)

川瀬 速男

文命西堤の謎を追う (二)

内田 清

語り部の会報告 (市民文化祭参加)

聞かせて下さい 小田原の子供の頃の面影を

史跡めぐり報告 (奈良方面へ)

大雄山最乗寺 三門落慶法要に参席して

小野 意雄

新刊紹介

『足柄乃文化』 (30)

『扣之帳』 (1) ひかえ

青木 良一

落穂集

植田 博之

第百九十七号 (平成十六年三月発行)

曾我の月

青木 良一

歌舞伎十八番「ういろいろ売」と外郎家の商法

小野 意雄

小田原映画文化シリーズ④

私と映画―裏方の裏方たち

植田 博之

後白河法皇の声

東 好一

明治時代、小田原の商家（1）

中村 静夫

小田原叢談（46）

初詣 根津神社・谷中七福神めぐり
語り部委員会だより

鳥居泰一郎

「小田原と邦楽」

石井富之助

春を詠う（俳句）

剣持 芳枝

落穂集

植田 博之

落穂集

植田 博之

小田原の郷土史再発見

江戸口一里塚は何処にあったか？

石井 啓文

落穂集

植田 博之

第百九十八号（平成十六年七月発行）

語りついで平和を考える

鳥居泰一郎

中村原郷の思い出（13）

遠藤 治郎

空襲、そして母は

山田 利治

酒匂史談（17）

川瀬 速雄

補追・江戸口一里塚は何処にあったか？

石井 啓文

片岡日記（29）

片岡永左衛門

二度の命びろい

石井 啓文

小田原提灯（四）

秋沢 達雄

（国産電機工場の爆撃と小田原空襲）

矢尾忠一郎

史上最大の小田原ちようちん登場

小野 意雄

小田原が暗転した日（上）

石井 啓文

小田原用水の調査・研究について

小野 意雄

―慶応四戊辰年五月二十一日―

石井 啓文

回答書を拝読して

石井 啓文

下曽我を訪れた文人たち

古川 一枝

＊「早川上水」を小田原市の史跡指定とする

陳情書

小田原史談会

―日清戦争の病死者―

青木 良一

＊「早川上水」を小田原市の史跡指定とする

陳情書について（回答）

教育委員会

とどけ、モンテンルパの空へ

田中 豊

＊「早川上水」を小田原市の史跡指定とする

陳情書の見解

文化財保護委員会

―俘虜収容所からの釈放を願って―

武田 敏治

研修委員会だより

勝俣淳一郎

向日葵（俳句）

剣持 芳枝

ふるさとは遠きにありて(上)

待ちわびる引揚船

植田 博之

俺のシベリア俘虜記

青木 秀雄

新刊紹介

『足柄乃文化』(31)

青木 良一

折りにふれて

高田 掬泉

落穂集

植田 博之

片岡日記(30)

片岡永左衛門

講演会記録

小田原史談会回顧

三津木国輝

平成十六年度総会報告

史跡めぐり

第百九十九号(平成十六年十月発行)

中勘助と小田原

―漱石の修善寺の大患と「銀の匙」―

木内 英実

小田原の郷土史再発見

板橋村字水神ヶ森

石井 啓文

鮎に生き 鯉に生き

―漁業小僧の奮斗記

井上 高久

小田原の桜

上田 謙二

折りにふれて(二)

高田 掬泉

落穂集

明治時代、小田原の商家(2)

植田 博之
中村 静夫

語り部委員会からのお知らせ

小田原叢談(47)

「水産業指導の大先達・水野正連」

石井富之助

銀杏散る(俳句)

剣持 芳枝

酒匂史談(18)

川瀬 速雄

中村原郷の思い出(14)

遠藤 治郎

片岡日記(31)

片岡永左衛門

市川一郎さん敬老の日にNHK出演

田口 鏡子

新刊紹介

『関重忠日記抄―イギリス留学より日露戦争まで』

『日本最古の水道「小田原早川上水」を考える』

『徐福論―いまを生きる伝説』

青木 良一

史跡めぐり案内

二〇〇五年(平成十七年)

第百二十号(平成十七年一月発行)

小田原史談二百号記念

小田原史談を飾った人々(一)(中野敬次郎)

なんでも知っている中野さん

青木 良一

新刊紹介

小田原史談

第200号
発行所 小田原史談会
小田原市栄町2-13-20
744-8600 電話0424(9637)

『小田原史談』二百号記念
小田原史談を飾った人々 (二) 中野敬次郎

何でも知っている中野さん

青木良一

「七ツとせ、なんでも知っている中野さん。知らぬはおのれ馬鹿ばかり」
これは中野敬次郎が小田原で教鞭をとっていた頃の話である。ある年の運動会が終わった後、校長以下教師の数々をこのように嘲したそうだが、これに対して「うそやが、なんだ、学生というものは勘のいいもんです」と余給をもって受けている。(おたわら歴史と文化 別号一九七七年発行)

中野敬次郎は一九〇三年(明治三十六)重泉伊勢に生まれ、神宮屋塾を卒業し就職も決まっていたが主任教師から是非小田原中学の歴史教師として

一九六一年(昭和三十三年)三月の朝刊号には「小田原城跡大天守閣」再建の要請点と題して一文を寄せている。この要請点というものは、元禄十六年の「江戸小田原大騒動」で壊された小田原城大天守閣の復興を望み、平たいわれというものである。一九六〇年(昭和三十五年)の小田原城大天守閣再建の中心となつて働いたなかで、右の要請点とそれを解決する資料を見出したのである。

第八号「春の史跡めぐり解説」は入田長興山・石垣山一夜城について詳しく紹介をして、以後は小田原市のみならず、津久井・八王子・三浦方面まで案内している。なんでも知っている中野さんは、史跡巡りの講師には最優秀の人であった。その名を調子聞こうと史跡巡りのお伴をした人たちが多数いたと聞かされた。

色は後半にある。第十九号青木氏の後、第二十号青木氏の墓など、いずれも小田原初期の足で踏まないで済む。この要請点と題して一文を寄せている。この要請点というものは、元禄十六年の「江戸小田原大騒動」で壊された小田原城大天守閣の復興を望み、平たいわれというものである。一九六〇年(昭和三十五年)の小田原城大天守閣再建の中心となつて働いたなかで、右の要請点とそれを解決する資料を見出したのである。

の第八十六号には「北条時代の曹洞禅寺の建立と僧侶群」が載っている。北条氏の時代のことを述べている。中野敬次郎が北条氏に関与した動機は、北条氏が小田原文化の基礎を創ったことによる。そこで、早い時期から大森氏について調べており、「大森氏の宗教文化」という論文がある。

第五十一号「小田原市の新指定文化財について」及び第九十四号「鎌倉期の維新五輪等の碑石発見」という文化財保護関係の記事が残っている。

「小田原史談」初期における最長の連載が「後北条氏秘話」である。一九八〇年(昭和五十五年)の第九十九号から百十六号まで

色は後半にある。第十九号青木氏の後、第二十号青木氏の墓など、いずれも小田原初期の足で踏まないで済む。この要請点と題して一文を寄せている。この要請点というものは、元禄十六年の「江戸小田原大騒動」で壊された小田原城大天守閣の復興を望み、平たいわれというものである。一九六〇年(昭和三十五年)の小田原城大天守閣再建の中心となつて働いたなかで、右の要請点とそれを解決する資料を見出したのである。

の第八十六号には「北条時代の曹洞禅寺の建立と僧侶群」が載っている。北条氏の時代のことを述べている。中野敬次郎が北条氏に関与した動機は、北条氏が小田原文化の基礎を創ったことによる。そこで、早い時期から大森氏について調べており、「大森氏の宗教文化」という論文がある。

第五十一号「小田原市の新指定文化財について」及び第九十四号「鎌倉期の維新五輪等の碑石発見」という文化財保護関係の記事が残っている。

『信仰の跡を尋ねて―西相地方の庚申信仰』

青木良一

少国民時代の思い出

久野坊所あたり

初富士(俳句)

小田原の水と酒造り

ある同窓会―ちよつといひ話―

小田原映画文化シリーズ⑤

「映画」この楽しきもの

―極私的メモリアル(邦画編)

関重忠おじい様のこと

落穂集

小田原が暗転した日(下)

―慶応四戊辰年五月二十一日―

明治時代、小田原の商家(3)

小田原叢談(48)

「馬車鉄道の社長・田島正勝」

会員だより(木村豊治さん・二宮文乃さん)

史跡めぐり実施報告

酒匂史談(19)

語り合った 我が家・我が故郷の年中行事

―正月からひな祭りまで―

第二百一号(平成十七年三月発行)

小田原で映画を初体験した

小田原史談を飾った人々(二)(立木望隆)

芦間乃道の散歩人

小田原の郷土史再発見

小田原の梅―歴史背景の謎を追う―①

ふる里の水の公園とお堀ばた

落穂集

明治時代、足柄下郡の名士など(1)

謎の神「第六天」を考える

植田 博之

石井 啓文

中村 静夫

石井富之助

川瀬 速雄

語り部委員会

山田 太一

青木 良一

石井 啓文

益田 昌子

植田 博之

中村 静夫

東 好一

小田原映画文化シリーズ⑥

「映画」この楽しきもの

―極私的メモリアル(洋画編)

自句自解

平倉 正
剣持 芳枝

小田原叢談(49)

「馬車から電車へ・中野武宮」

石井富之助

片岡日記(32)

片岡永左衛門

新刊紹介

『現代文訳 小田原大秘録』

青木 良一

史跡めぐり実施報告

研修委員会

創立五十周年記念 東海道五十三次宿場めぐり案内

第二百二号(平成十七年七月発行)

六三制教育の黎明期と岡部忠夫先生

小泉 君夫

戦後六十年

昭和二十年八月一日の便り

武田 敏治

折りにふれて(三)

高田 掬泉

小田原史談を飾った人々(三)(高田喜久三)

万骨の声

青木 良一

足柄平野の小字 地名行脚(一)

大脇 良夫

酒匂史談(20)

川瀬 速雄

明治時代、足柄下郡の名士など(2)

中村 静夫

小田原叢談(50)

「異色の本屋・小立鉦四郎」

片岡日記(33)

石井富之助
片岡永左衛門

自句自解

剣持 芳枝

新刊紹介

『小田原地方の戦争遺跡』

『三嶋暦・相模国の弘暦網』

青木 良一

山口一夫前会長を偲んで

石井 啓文

講演

「足柄古道(古東海道)あれこれ」

本多 秀雄

平成十七年度総会報告

東海道五十三次宿場めぐり案内(2)

創立五十周年記念式典等のお知らせ

落穂集

植田 博之

第二百三号(平成十七年十月発行)

ビナンカズラの実の熟するころ

―北条氏時代小田原若侍風姿伝―

森戸の今昔

田代 道彌

秋雑感

野地 芳男

下曾我を訪れた文人たち(2)

加藤 喬

小田原の梅

古川 一枝

―歴史背景の謎を追う―②
新刊紹介

『足柄乃文化』(32)

『富士のある風景』

足柄平野の小字 地名行脚(二)

和菓子と人生

話してください

我が家・我が故郷の年中行事(二)

―花祭りからお盆まで―

自句自解

酒匂史談(21)

小田原叢談(51)

「金太郎の話」

東海道五十三次宿場めぐり案内(3)

小田原史談会創立50周年記念行事

石井 啓文

青木 良一

大脇 良夫

神戸 徹

語り部委員会

剣持 芳枝

川瀬 速雄

石井富之助



著者別

相澤 栄一	内田 盛雄	川瀬 速雄	武田 敏治
青木 友吉	遠藤 治郎	川邊 昂	竹見 龍雄
青木 良一	大島 慎一	木村 博	谷口 得二
秋沢 達雄	大脇 良夫	日下部庄一	立木 望隆
浅見 靈風	岡部 忠夫	城川 四郎	中里 史子
東 好一	隠岐 威重	齊藤圭一郎	中野敬次郎
天野 宏	小野 薫	佐久間俊治	中村 静夫
飯田 悟郎	小野 意雄	澤地 英	難波 明
石井富之助	勝俣淳一郎	清水専吉郎	西山銈太郎
石井 啓文	加藤 誠夫	神保 栄	額田喜代春
石綿 勉	岸 達志	神保 西蔵	古川 一枝
市川 一郎	剣持 芳枝	杉崎 正五	穂坂 辰巳
井上 栄一	小林 譲光	杉山 博久	穂坂 行雄
岩崎 宗純	香川 政治	瀬戸 長治	星野喜久雄
植田 博之	柏木 次郎	高田喜久三	星野 幸一
内田 清	片岡永左衛門	高田 稔	三津木国輝
内田 武雄	川瀬 春雄	高橋 佐年	蓑田 長年

相澤栄一

- 一枚の古き写真の思い出(百三十号)
大正始めのお濠端界限(百三十五号)
少年の頃の思い出話(百四十号)
小田原駅前・幸町界限(百五十九号)
小田原今昔 本町界限(百六十号)

青木友吉

私の早川村誌

- 8 紀伊神社(百三十七号)
9 紀伊神社のこと(百三十八号)
10 紀伊神社埋経三筋壺について(百四十一号)
11 北条宗時の墓所(百四十二号)
12 村を潤した車川(百四十八号)
13 『皇国地誌』を読んで(百五十号)
* 一九九六年(平成八年)『私の早川村誌』として刊
行された。

青木良一

- 二宮金次郎の正月出弄(百九十六号)
曾我の月(百九十七号)
病い革(すみやか)になりて
―日清戦争の病死者―(百九十八号)
小田原史談を飾った人々

- 1 なんでも知っている中野さん―中野敬次郎(二
百号)

- 2 芦間乃道の散歩人―立木望隆(二百一号)
3 万骨の声―高田喜久三(二百二号)

秋沢達雄

小田原提灯

- 1 (百九十三号)～4 (百九十七号)
霧の中の御国座(百九十五号)

浅見靈風

- 飯泉八幡神社縁起伝説(二十五号)
「崇りの榎塚」消える(四十三号)

東 好一

- 後白河法皇の声(百九十七号)
謎の神「第六天」を考える(二百一号)

天野 宏

盲目暦

- 1 (百五十号)～4 (百五十三号)
脱出(百七十九号)

飯田悟郎

古墳遍歴

- 1 (百四十二号) ～ 16 (百六十号)

石井富之助

現代語訳・小田原大秘録 (二号～十一号まで八回)

* 同様の内容は、『古餘綾見聞志』(神奈川叢書第六

編・一九六七年) および『現代文訳 小田原大秘

録』(鳥居泰一郎訳・二〇〇四年) にもある。

小田原とはどういう都市か

- 1 北条時代の小田原 (百二十九号)
 - 2 江戸時代の小田原 (百三十号)
 - 3 明治時代の小田原 (百三十一号)
 - 4 小田原駅開通から市政施行まで (百三十二号)
 - 5 終戦後の小田原 (百三十三号)
 - 6 交通都市小田原 (百三十四号)
- 明治以後小田原劇場物語

- 1 (百三十五号) ～ 6 (百四十号)

* 明治以前については、『神奈川県史研究』9 (一九

七〇年) に「劇場桐座由緒書」(石井富之助) があ
る。

小田原叢談

- 1 「小田原という名を冠した事物」
- 「小田原相談」(百四十一号)
- 2 「道中記が語る海の名勝」
- 「町名の移り変り」(百四十二号)
- 3 「小田原駅周辺」(百四十三号)
- 4 「松原神社界わい」
- 「新道の話」(百四十四号)
- 5 「酒匂橋今昔」
- 「初音新地」(百四十五号)
- 6 「北へ流れ東へ流れる」(百四十六号)
- 7 「時の鐘」
- 「漁師の天気予報」(百四十七号)
- 8 「小田原人かたぎ」
- 「小田原水道」
- 「漁師の天気予報」補 (百四十八号)
- 9 「ランプとガスと電燈と」
- 「座売りから陳列式へ」(百四十九号)
- 10 「小田原ばやし」(百五十号)
- 11 「小田原のはつもうで」
- 「板橋のお地藏さん」(百五十一号)
- 12 「大だいまつ」

- 「飯泉のお観音さん」(百五十二号)
 13 「線香まつり」(百五十三号)
 14 「私の家の年中行事」(百五十四号)
 15 「続・私の家の年中行事」
 「小田原のこま」(百五十五号)
 16 「だるま・けんやき・むかでたこ」(百五十六号)
 17 「竹がえし」(百五十七号)
 18 「一文菓子屋と物売り屋」(百五十八号)
 19 「小田原の梅」(百五十九号)
 20 「小田原の桜」(百六十号)
 21 「御感の藤」(百六十一号)
 22 「小田原のみかんの名称」(百六十三号)
 23 「小田原の滄浪閣」(百六十四号)
 24 「道徳教会」(百六十五号)
 25 「文庫流れ」(百六十六号)
 26 「実業奨励会と二葉会」(百六十七号)
 27 「下田隼人と錦織神社」(百六十八号)
 28 「史跡保存の先達」(百六十九号)
 29 「小田原風鈴」
 「あゆの味」(百七十号)
 30 「村井玄斎と小峯紋弥」(百七十一号)
 31 「川崎長太郎さんの抹香町」(百七十二号)

- 32 「畑の平の富士」(百七十三号)
 33 「氏康柱」
 「小田原最初の新民謡」(百七十四号)
 34 「北原白秋の『雲の歌』」(百七十五号)
 35 「平岡吟舟と小田原」(百七十六号)
 36 「怪物・鈴木善左衛門」(百七十七号)
 37 「箱根関所脇道」(百七十八号)
 38 「大磯の嶋立沢」(百七十九号)
 39 「庄司甚右衛門と久米平内」(百八十一号)
 40 「小田原と宏道流」(百八十三号)
 41 「知られざる大家・沼田荷舟」(百八十六号)
 42 「父子二代」(百八十八号)
 43 「小田原と謡曲」(百九十一号)
 44 「小田原と歌舞伎」(百九十三号)
 45 「小田原と落語」(百九十五号)
 46 「小田原と邦楽」(百九十七号)
 47 「水産業指導の大先達・水野正連」(百九十九号)
 48 「馬車鉄道の社長・田島正勝」(二百号)
 49 「馬車から電車へ・中野武宮」(二百一号)
 50 「異色の本屋・小立鉦四郎」(二百二号)
 51 「金太郎の話」(二百三号)

石井啓文

小田原の郷土史再発見

年貢割付状にみる新屋村と中里村の合併（百七十一号）

鴨宮を発祥とする星崎姓について（百七十三号）

足柄下郡中里村の起り（百七十五号）

山王原村の起りと早雲の菊寿丸所領注文（百七十七号）

酒匂川徒歩渡の始まりと仮橋（百七十八号）

補追・酒匂川徒歩渡の始まりと仮橋（百七十九号）

追補・鴨宮を発祥とする星崎姓について（百八十一号）

小田原の起りと「こゆるぎ」考（百八十二号）

酒匂川徒歩渡の終焉（百八十三号）

日本最古の水道「早川上水」（百八十五号）

日本最古の水道「早川上水」の仕組み（百八十六号）

日本最古の水道は早川上水か小田原用水か（百八十七号）

「小田原用水」の復原では、小田原の歴史が曲げられ、北条氏の事績が抹消されてしまう！（百八十九号）

三嶋暦・相模国の弘暦網

1（百九十一号）～3（百九十三号）

日本最古の水道「早川上水」を歩く（百九十四号）

植田又兵衛先生と小田原水道（早川上水）（百九十五号）

植田又兵衛先生と小田原水道②（百九十六号）

江戸口一里塚は何処にあったか？（百九十七号）

補追・江戸口一里塚は何処にあったか（百九十八号）

小田原が暗転した日（上）（百九十八号）

板橋村字水神ヶ森（百九十九号）

小田原が暗転した日（下）（二百号）

小田原の梅―歴史背景の謎を追う

1（二百二号）～2（二百三号）

*『小田原の郷土史再発見』（二〇〇一年）『日本最古の水道「小田原早川上水」を考える』（二〇〇四年）『三嶋暦・相模国の弘暦網』（二〇〇五年）等として刊行された。

石綿 勉

孝行者藤右衛門尚清

1（百五十九号）～5（百六十六号）

朝鮮ビエ書留記（百八十号）

江戸口見付跡の写真に思う（百八十二号）

酒匂川河口の空中写真をみて（百八十三号）

江之浦地区の古い写真をみて（百八十六号）

千代・本立寺の板絵（百八十七号）

写真から覗く民間の力

―大正初期の幸町の町並みより―（百九十一号）

小正月のだんご・まゆだま（百九十二号）

小田原駅舎と周辺の情報抄（百九十三号）

映画館特別号

―オリオン座と東宝館の閉館に際し（平成十五年特別号）

小田原駅西口方面の写真をみて（百九十五号）

市川一郎

曾我谷津の宗我氏と曾我氏とその末裔

1 宗我神社（百六十八号）

2 構内社（百六十九号）

3 宗我神社と神主（百七十号）

4 宗我神社の勧化（百七十一号）

5 曾我氏とその末裔（百七十二号）

6 曾我氏とその末裔（続）（百七十三号）

7 曾我氏とその末裔（続）（百七十四号）

8 曾我氏とその末裔（続）・旧阿弥陀堂（百七十五

号）

9 菊川稲荷（百七十六号）

10 菊川等（百七十七号）

井上英一

医王山正見寺の由来（十号）

随筆・会社乗っ取り騒動

①（十二号）⑤（十六号）

実話・二宮尊徳と古屋キノと言う人（二十八号）

天王講に参加して（三十二号）

大震災の想い出（四十九号）

足柄山の五仙人（五十号）

酒匂川決壊と水害状況（五十二号）

九州の大親分（侠客）上（八十号）

九州の大親分（侠客）上（八十二号）

岩崎宗純

小田原の浮世絵

1（百四十一号）⑦（百四十九号）

植田博之

私と映画―戦中、戦後の少年時代（百九十六号）

私と映画―裏方の裏方たち（百九十七号）
ふるさとは遠きにありて（上）

―待ちわびる引揚船（百九十八号）

内田 清

古文書講座

- 1 養子につき村送り証文（百四十九号）
- 2 婿入りにつき寺送り証文（百五十号）
- 3 離縁状は再婚許可証文（百五十二号）
- 4 金子借用の証文（百五十三号）
- 5 郷借証文（百五十四号）
- 6 田畑売買の証文（百五十五号）
- 7 頼母子講掛返証文（百五十六号）
- 8 米盗人八兵衛の獄門（百五十七号）
- 9 中村原の善次郎の水車（百五十八号）
- 10 炭屋七兵衛の約束手形（百五十九号）
- 11 紺屋組合改革掟（百六十号）
- 12 造酒屋出店証文（百六十一号）
- 13 油稼ぎ御免・冥加金請書（百六十三号）
- 14 名主連の職人賃金引下願書（百六十四号）
- 15 ねずみ送り（百六十五号）
- 16 幕末酒匂川のアユ漁（百六十六号）
- 17 線香につき法授寺口上（百六十七号）
- 18 無宿仙右衛門一件につき差紙（百六十八号）
- 19 俵約につき鴨宮村民の議定（百六十九号）
- 20 小田原海岸の花火（百七十号）
- 21 報徳加入金写帳の特色（百七十一号）
- 22 吉岡嘉（火）事と農民狂歌（百七十二号）
- 23 朝鮮通信使最乗寺の盜鷄を食う（百七十三号）
- 24 仏師蓮池左内の注文状（百七十四号）
- 25 墓碑にみられる夫婦愛（百七十五号）
- 26 金次郎枰の免状と狂歌（百七十七号）
- 27 小作税請書と御城内新田（百七十八号）
- 28 六花苑の俳句を読む（百七十九号）
- 29 最乗寺道了尊と辻村甚八郎（百八十号）
- 30 足柄の築城石を読む―加藤肥後守・松平土佐守を巡って（百八十一号）
- 31 足柄の俳句額を読む―その評価方法と調査法について（百八十二号）
- 32 近世江戸文学を読む―紀行、木版本の読み方（百八十三号）
- 33 大雄山の杉林を見直す―竹本屋幸右衛門の買木から（百八十四号）
- 34 竹本屋幸右衛門の実像を追う（百八十六号）

35 酒匂川の舟運―元禄期の反対運動を中心に（百八十七号）

36 武田勝頼夫人の願文を読み直す―虚心で古文書にあたる（百八十八号）

37 湯本（荻窪）堰の工事期間は三年―郷土史の落し穴にご用心（百九十号）

文命西堤の謎を追う

1（百九十四号）ゝ2（百九十六号）

内田武雄

北海道の開拓者大友亀太郎（十二号）

明峰記のしり馬に乗って（四十四号）

小沢家と小沢大明神（四十六号）

北海道開拓者―大友亀太郎（五十五号）

曾我氏に付いて―曾我氏系図継の検討（五十九号）

白山大権現と番太郎（六十一号）

光海出現永塚観音（六十三号）

若い衆の昔話（六十三号）

大友氏（上）（六十四号）

大友氏（下）（六十五号）

大友氏と盛泰寺（六十六号）

下曾我遺跡（上）（六十七号）

下曾我遺跡（下）（六十八号）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか（昭和五十年「史談小田原」特集号）

相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか

1（七十五号）ゝ5（八十一号）

誠忠之碑（八十四号）

内田盛雄

師長の古里へのいざない（百六号）

師長の古里へのいざない②（百七号）

千代台廃寺鬼瓦（百十二号）

千代廃寺古瓦は語る

1（百二十三号）ゝ3（百二十五号）

相模国分寺？（海老名）鬼瓦は千代廃寺鬼瓦の

模作品（百二十六号）

遠藤治郎

中村原郷の思い出

1（百八十二号）ゝ4（百九十九号）

大島慎一

史跡小田原城址 馬屋曲輪の試掘調査について（百八

十四号)

史跡小田原城 馬屋・大腰掛範圍確認調査について(百八十九号)

大脇良夫

足柄平野の小字 地名行脚

1 (二百二号) 〽 2 (二百三号)

岡部忠夫

樋口弥門のこと―大稲荷神社の御手洗から―(百二十四号)

中野先生と尾崎士郎(百二十八号)

戦後のひとこま(百二十九号)

二宮尊徳の画像(百三十号)

北海道開拓の先駆者 大友亀太郎(百三十号)

北村透谷と交友のあった紅蓮洞・坂本易徳

1 (百三十四号) 〽 34 (百八十二号)

北村透谷記念碑建立の経緯(百三十八号)

景観保持を一片の葉書に託した白秋(百四十号)

今は幻の小田原競馬(百四十二号)

おひつじさまの多胡碑(百四十三号)

多胡碑にかかわりのある郷土の人―尾崎喜佐雄と岡本

隆徳―(百四十三号)

相模國足柄下郡西筋町田村絵図(百四十四号)

伊藤博文ハルピン行を前に最後の写真(百四十五号)

相模國足柄下郡府川村絵図(百四十八号)

国府津三ツ俣遺跡―弥生時代中期から平安時代に及ぶ

大規模な集落跡―(百四十九号)

小田原今昔 谷津から荻窪にかけての景観の変貌(百五十二号)

井伏鱒二さんと伊奈半左衛門(百五十四号)

西相模三カ所の遺跡発掘―小田原本町・南足柄塚田・

山北湯坂―(百五十五号)

尾崎正さんに透谷祭六十年頃の事情を聞く(百五十七号)

銀行支店長を務めた片岡永左衛門さん(百五十九号)

益田信世の出猟記念写真から(百六十号)

早川村の歴史の発掘に立派な業績を残された青木友吉

さんを偲んで(百六十五号)

石井富之助さんと北条時頼の書(百六十六号)

「さるかやど」のお稲荷さん(百六十七号)

井口島・瀬戸田で出会った「徳本」の六字名号碑(百七十一号)

時宗の開祖一遍とその開基他阿真教(百七十四号)

透谷の書誌作成に打ち込む鈴木一正さん(百七十五号)
大正十年九月井細田八幡神社祭礼の記念写真(百七十六号)

一枚の写真から―中川亦一さんに聞く(百七十八号)

片岡永左衛門夫妻の墓(百七十八号)

井細田八幡神社の拝殿落成式(百八十一号)

画家岡本秋暉の父政美(百八十三号)

補遺・尾崎亮司

1 「小田原保勝会略記」碑に関連して(百八十四号)

2 小田原競馬場建設①(百八十五号)

3 小田原競馬場建設②(百八十六号)

4 小田原競馬場建設③(百八十七号)

5 小田原競馬場建設④(百八十八号)

6 小田原城内高校と関わりのある人びと①(百八十九号)

十号)

7 小田原城内高校と関わりのある人びと②(百九十号)

十号)

8 小田原城内高校と関わりのある人びと③(百九十一号)

十一号)

9 小田原城の変遷①(百九十二号)

10 小田原城の変遷②(百九十三号)

11 小田原城廃城後の変遷(百九十六号)

* 右は『おだわら―歴史と文化』(4)(5)収録の

「大正から昭和初期にかけてまちの発展のために
骨身を削った尾崎亮司」に続くものであるため「補
遺」と題されている。

西相模の石造物

1 (百二十七号) 10 (百三十六号)

* 『信仰の跡を尋ねて―西相地方の庚申信仰』(二〇

〇四年) がある。

隠岐威重

朝井閑右衛門―昭和初頭のころ小田原にて(百三十五号)

打ち縄・角鈎考(一)(百三十六号)

打ち縄・角鈎考(二)(百三十七号)

花園幼稚園…諸白小路(百四十号)

『ばあばのくりごと』を読んで(百四十五号)

小野 薫

久野古墳と謎を語る山肌の石(百五十一号)

釜土(竈)を語る(百七十九号)

農具が語る生活史「簀」「混ぜ棒」(百八十号)

小田原城石垣の刻印調査(一)(百八十三号)

小野意雄

幕末、中島本久寺に住持された成貞尼について

1 (百三十五号) ～ 5 (百四十号)

北村透谷 係累覚抄 (百五十七号)

大久保忠良・徳大寺照子縁組覚書

1 (百五十九号) ～ 3 (百六十一号)

根府川の福踊り (百七十三号)

江戸・東京に小田原を探る！

1 (百七十五号) ～ 3 (百七十七号)

箱根関所御要害地図 雛形 (張抜) の事 (百七十八号)

楽壽園「旧芝離宮庭園」の『謎の石柱』について (百

八十号)

「高尾山」参詣の記 (百九十二号)

ご奉仕の新しい生命を戴いて (百九十四号)

歌舞伎十八番「ういろう売」と外郎家の商法 (百九十七号)

勝俣淳一郎

酒匂川の川越 (百七十二号)

酒匂川の川越 (続き) (百七十五号)

昭和二十年代の城東高校・二中 (白鷗中) の航空写真 (百

七十七号)

加藤誠夫

釜戸跡発掘当日の状態 (五十九号)

法印快運と其の時代 (六十五号)

木瓜紋と大友氏 (六十六号)

気高くて親しみのある道了尊 (六十七号)

街道筋の助郷と其の変遷

1 (七十二号) ～ 3 (七十四号)

岸 達志

古寺新春 (創刊号)

史都閑談 (昭和四十三年特集第一号)

新井薬師と北条氏 (六十二号)

峯堅雅老師を悼む (六十六号)

知られざる郷土の名僧・抜隊禪師 (百二十八号)

小田原のエンサイクロペディスト (百二十八号)

間中喜雄氏の「平和の碑」 (百四十二号)

小田原に住んだ名士の資料 (百五十七号)

立木望隆氏と歴史 (百六十二号)

剣持芳枝

一句鑑賞

1 (百七十七号) ～ 19 (百九十六号)

自句自解

1 (二百一号) ～ 3 (二百三号)

小林謙光

小田原の富士信仰

1 (百七十一号) 丸東講 1

2 (百七十二号) 丸東講 2

3 (百七十四号) 丸岩講 1

4 (百七十五号) 丸岩講 2・東講 1

5 (百七十六号) 東講 2

6 (百七十七号) 東講 3

7 (百七十八号) その他の講

8 (百七十九号) むすび

小田原市富士講関係石造物一覧表

続 (百八十四号) 追補

香川政治

往時の農民生活 (九十一号)

酒匂川堤の金石文 (百五号)

小田原水道事件 (足柄騷擾事件) 追憶記 (百一号)

柏木次郎

八丁河原 (六十一号)

新田小史 (上) (七四号)

新田小史 (下) (七五号)

新田小史 (中新田編) (七十八号)

鉄

1 (八十号) ～ 3 (八十三号)

片岡永左衛門

関東大震災 (百五十八号)

震災日記

1 (百六十号) ～ 19 (百八十一号)

片岡日記

20 (百八十三号) ～ 33 (二百二号)

川瀬春雄

酒匂鍛冶考

1 (八十一号) ～ 7 (百四号)

酒匂「はんべの宿」について (百十七号)

酒匂神社のルーツについて (百三十九号)

川瀬速雄

酒匂石器土器収集報告及び古代の酒匂考察

1 (八十六号) ～ 3 (八十八号)

酒匂中宿の家号呼称と大正期の家並み (九十二号)

酒匂史談

1 (百七十九号) ～ 18 (二百三号)

川邊 昂

川邊本家物語り

1 (百五十九号) ～ 4 (百六十四号)

木村 博

民俗探訪・子供るす (創刊号)

寝正月 (十八号)

鮎釣りの歴史と女性 (昭和四十三年「特集第一号」)

「末期の水」をめぐって (五十七号)

「精霊様も買物」と「蚤の波」 (昭和五十年「史談小田原」特集号)

日下部庄一

源重之

1 (百六十号) ～ 年表 (百八十三号)

城川四郎

丹沢の植物

1 (百三十八号) ～ 50 (百八十八号)

斎藤圭太郎

板部岡江雪斎融成出自考

1 (百二十七号) ～ 4 (百三十一号)

佐久間俊治

地価高騰余話 (百三十二号)

一明治人の座右の銘 (百四十七号)

明治の風流人、横山清男の旅日記「熱海の藻塩」

1 (百五十二号) ～ 5 (百五十五号)

清水専吉郎

小田原宿駅と本陣 (四号)

報徳祭に参じて (十五号)

伝馬制度と税金 (二十一号)

故吉川英治氏と天守閣 (二十六号)

史実 (口碑) (四十四号)

大松明を惜しむ (四十九号)

たとお（畳紙）の中よりお触れ書（五十号）

小田原城址外濠現存由来（昭和四十三年特集第一号）

明治百年小田原の謡曲界懷古（五十二号）

小田原の消防と火災（五十三号）

国学者歌人吉岡信之（六十号）

後北条時代の相州蜜柑（六十四号）

神保 栄

花柳界より見た小田原（四十四号）

曾我氏の館跡（四十六号）

道祖神の正月子供の行事について（四十七号）

和算の先生―内田惣五郎（六十号）

大庭氏のこと（六十一号）

惣太あん（六十四号）

梅林と古墳（六十六号）

神保西蔵

曾我の郎党鬼王団三郎（六十二号）

満江御前―隠居した下屋敷（六十四号）

神奈川県養蜂史（昭和五十年「史談小田原」特集号）

曾我兄弟と伝説の不動尊（八十五号）

宇佐美禅師の子孫と曾我城跡の伝説（九十三号）

杉崎正五

永祿の昔を今に（十八号）

人力車の発明（三十五号）

田島古墳発掘について（四十四号）

杉山博久

原始・古代の小田原（上）（六十三号）

原始・古代の小田原（下）（六十四号）

瀬戸長治

相田軍曹と日清戦争

1（百七十五号）～9（百八十三号）

* 右に未収録の書簡については、『阿兄へ、妻へ夫へ
―日清戦争の書簡集、相田軍曹と早川村の人々』
（二〇〇〇年）として刊行された。

高田喜久三（掬泉）

北村透谷生誕百二十年を迎えて（百三十四号）

福田正夫詩碑（百三十七号）

落城を目前に出された感状―悲運の城主北条氏直（百
四十一号）

材木屋綺談

1 (百四十二号) ～ 27 (百七十二号)

近代小田原百年小史稿

1 (百四十三号) ～ 8 (百五十一号)

一枚の写真が語る時代の移り変り(板橋見付)(百四十六号)

やがて消え去る戦中戦前派の世代から戦後生れの人々に送る言葉

1 (百五十三号) ～ 3 (百五十五号)

北村透谷没して百年―短くて傷ましいその生涯と

輝かしい業績(百五十六号)

単なる自然災害だけではなかった関東大震災

―いま省みるその歴史的意義(百五十八号)

戊辰戦争後日譚(第百五十九号)

茫々五十年―かつて戈とりし事(百六十一号)

折にふれて

1 (百九十八号) ～ 3 (二百二号)

高田 稔

小田原地方の寺子屋

1 庶民の読み書き能力(百三十号)

2 寺子屋の登場(百三十一号)

3 寺子屋師匠(百三十二号)

4 小田原藩士以外の師匠(百三十三号)

*『神奈川の寺子屋地図』(一九九三年)として刊行された。

高橋佐年

「道了大薩埵」の二つの碑

1 (百九十号) ～ 2 (百九十一号)

武田敏治

戦後五十年の夏(百六十三号)

日本画家 宮部春虹先生

―中学時代の思い出(百六十八号)

一枚の写真から

―あの頃僕らは少国民だった(百八十四号)

母校に証された昭和史の証

―少年飛行兵 雲流るる果に(百八十五号)

文武館創立と竹添進一郎(百九十五号)

とどけ、モンテンルパの空へ

―俘虜収容所からの釈放を願って(百九十八号)

少国民時代の思い出―久野坊所あたり(二百号)

戦後六十年―昭和二十年八月一日の便り(二百二号)

竹見龍雄

史跡を訪ねて―「くら街道」(六十六号)

中井町(中村郷上ノ中村)史跡巡り(六十九号)

前川、梅沢、二宮史跡巡り(七十三号)

六本松・上町の二古道と前川の東海道は何時から通り

始めたか(昭和五十年「史談小田原」特集号)

橘地区の民話

1(七十五号)ゝ4(七十九号)

谷口得二

藩札の研究―各藩で発行された紙幣の諸問題

1(百七十四号)ゝ2(百七十五号)

酒匂上輩寺三十四世桜沢堂山の研究―合巻作者柳水亭

種清

1(百八十号)ゝ9(百八十八号)

立木望隆

考古学教室 縄文土器のはなし(創刊号)

地名と郷名―酒匂・和戸・足柄(第四十七号)

幻庵略譜(三十七号)

幻庵印判について―宝泉寺文書から(五十四号)

幻庵おぼへ書(五十六号)

小田原島津の起り(五十七号)

幻庵生誕四百八十年祭(七十号)

伊勢新九郎備中出身説を探る(七十二号)

*立木望隆主宰の郷土誌に『芦間乃道』がある。一九八二年(昭和五十二年)創刊、一九九五年(平成七年)の四十三号まで続いた。

中里史子

歴史随想―古瓦(五十五号)

「小田原史談会事始」の記(七十号)

北原白秋のこと(七十一号)

中野敬次郎

真説曾我兄弟

1(十四号)ゝ7追記(二十一号)

*『曾我兄弟』(小田原文庫・一九七九年)として刊行された。

後北条氏秘話

1 小田原落城後の北条一族の行方1(九十九号)

2 小田原落城後の北条一族の行方2、小田原城合

戦にまつわる美女達(百号)

- 3 小田原城合戦にまつわる美女達2 (百一号)
- 4 北条氏秀 (上杉景虎)、石垣山一夜城の悲劇1 (百二号)

5 石垣山一夜城の悲劇 (山上宗二) (百三号)

6 (10) 石垣山一夜城の悲劇 (山上宗二) (百四号)

7 (11) 石垣山一夜城の悲劇 (山上宗二) (百五号)

8 (12) 天涯孤独の人・香沼姫 (百六号)

9 (13) 北条氏直没後の一門家臣の行方 (百七号)

10 (14) 北条氏忠の周辺を洗う物語 (百八号)

11 (15) 北条氏邦と氏房の最後 (百九号)

12 (16) 流転の姉・悲劇の妹1 (百十号)

13 (17) 流転の姉・悲劇の妹2 (百十三号)

14 (18) 小田原北条氏の全盛期を築いた陰の女性、北条文化小田原から江戸に移る1 (百十四号)

15 (19) 北条文化小田原から江戸に移る2 (百十五号)

16 (20) 北条文化小田原から江戸に移る3 (百十六号)

号)

北村透谷家譜の探究

1 (百十六号) ～ 5 (百二十一号)

小田原の埋れ木発掘帖 小田原の辞世文学

1 (百二十六号) ～ 2 (百二十七号)

遺稿 伊勢者先生 (百二十九号)

中村静夫

明治時代小田原の商家

1 (百九十七号) ～ 3 (二百号)

明治時代、足柄下郡の名士など

1 (二百一号) ～ 2 (二百二号)

難波 明

第一号を皆さまに送る (創刊号)

梅花詩一題―北条氏康 (五十八号)

小田原城障子堀並びに畝堀考 (六十九号)

諸白小路について (百二十三号)

茶畑考 (百二十五号)

西山銑太郎

禅林奇談 (八十四号)

禅林奇談 (二) (八十八号)

曾我岸地藏堂 (八十九号)

自修学校物語

1 (百五号) ～ 4 (百十号)

我が郷土の、我が家の年中行事

1 (百十七号) ～ 7 (百三十二号)
相州上曾我村瑞雲寺開基争論記

1 (百三十四号) ～ 4 (百三十九号)
相州曾我岸村と天津神社

1 (百四十二号) ～ 2 (百四十四号)

古川一枝

下曾我を訪れた文人たち

1 (百九十八号) ～ 2 (二百三十三号)

穂坂辰巳

山伏塚 (二号)

風外上人と定光院の末路

1 (四号) ～ 3 (七号)

穂坂行雄

曾我兄弟の母「まんこう」御前考 (昭和五十年「史談

小田原」特集号)

曾我と登禪上人 (七十八号)

額田喜代春

小田原駅開設四十七周年の思い出 (五十一号)

小田原駅今昔物語 (昭和五十年「史談小田原」特集号)
小田原駅前今昔物語 (八十三号)

小便小僧 (八十八号)

星野喜久雄

井細田の歴史 (二十号)

いさいだ記 (四十三号)

星野幸一

扇町風土記 (百三十三号)

久野川挽歌 (百十四号)

「陣が道」という名の古戦場 (百十五号)

古里望景 (百十六号)

井細田の道祖神 (百十八号)

穴部用水 (百二十三号)

日中戦争と村のプラスチックバンド (百二十五号)

扇町の幻景

― 地表改変の足跡と町並み形成 ― (百三十一号)

鑄掛屋物語

― お袋の味と鑄掛鍋 ― (百三十五号)

井細田八幡神社の昭和史 (一) (百四十五号)

井細田八幡神社の昭和史 (二) (百四十六号)

古刹秘史 浄永寺（百五十一号）

古刹秘史 浄永寺（二）（百五十二号）

三津木国輝

城内井戸について（四十七号）

大久保忠隣の晩年（昭和五十年「史談小田原」特集号）

小田原史談会発足のころ（百九十号）

小田原史談会回顧（百九十八号）

蓑田長年

中垣謙斎を偲ぶ

1（十三号）ゝ4（十六号）

仇討考（二十四号）

項目別

〈曾我兄弟〉

曾我兄弟仇討の発心 穂坂辰巳（創刊号）

真説曾我兄弟 中野敬次郎

1（十四号）ゝ追記（二十一号）

仇討考 蓑田天峰（二十四号）

満江御前―隠居した下屋敷 神保西蔵（六十四号）

伝説―虎御前 神保太郎吉（七十八号）

軍歌の曾我兄弟 西山銚太郎（七十九号）

曾我兄弟の母「まんこう」御前考 穂坂行雄（昭和五

十年「史談小田原」特集号）

曾我兄弟と伝説の不動尊 神保西蔵（八十五号）

宇佐美禪師の子孫と曾我城跡の伝説 神保西蔵（九十

三号）

曾我の月 青木良一（百九十七号）

〈小田原北条氏〉

小田原北条氏と鯉節 内田武雄（三十六号）

幻庵略譜 立木望隆（三十七号）

幻庵印判について 立木望隆（五十四号）

後北条氏女性史―崎姫おぼえ書 立木望隆（昭和四十

三年特集第一号）

幻庵おぼえ書 立木望隆（五十六号）

早雲寺殿廿一ヶ條（五十六号）

小田原戦役記念行事（五十七号）

梅花詩一題―北条氏康 難波 明（五十八号）

新井薬師と北条氏 岸 達志（六十三号）

後北条時代の相州蜜柑 清水専吉郎（六十四号）

小田原城障子堀並びに畝堀考 難波 明（六十九号）

幻庵北条長綱公生誕四八〇年祭（七十号）

伊勢新九郎備中出身説を探る 立木望隆（七十二号）

北条氏康の娘・今川氏真室早河殿への回想 杉山 博

（昭和五十年「史談小田原」特集号）

後北条氏の寺院建立と名僧群 中野敬次郎（同右）

北条氏康前後の小田原文化 中島亮一（同右）

小田原北条時代をのぞき見して 加藤誠夫（八十二号）

北条時代の曹洞禅寺の建立と僧侶群 中野敬次郎（八

十六号）

後北条史秘話 中野敬次郎

1（九十九号）ゝ16（20）（百十六号）

板部岡江雪斎融成出自考 斎藤圭太郎

1（百二十七号）ゝ4（百三十一号）

北条氏の三つ鱗紋 和田 登・岡部忠夫（百三十五号）

落城を目前に出された感状―悲運の城主北条氏直 高

田喜久三（百四十一号）

北条氏政・氏照公四〇〇年遠諱法要（百四十二号）

八王子合戦戦没者四百年忌追善供養（百四十三号）

北条早雲知計のこと（百四十四号）

北条氏政・氏照墓前祭（百四十六号）

喰ひ残の搗栗錦の袋に北條家高祖の守りの事―翁草よ

り（百五十号）

北條早雲と臨濟禪 中村俊郎（百五十四号）

北条氏政公の首塚（百六十五号）

秀吉の宣戦布告状 中村俊郎（百七十二号）

「氏康柱」 石井富之助（百七十四号）

武田勝頼夫人の願文を読み直す 内田 清（百八十八号）

号）

小田原評定と制札をめぐって 澤地 英（百九十一号）

ビナンカズラの実の熟するころ―北条氏時代小田原若

侍風姿伝 田代道弥（二百三十三号）

〈二宮尊徳〉

小田原藩政と報徳仕法覚（一） 古屋安定（三十三号）

尊徳祭所感 米山要助（三十三号）

小田原藩政と報徳仕法覚（二） 古屋安定（五十五号）

実話・二宮尊徳と古屋キノと言う人 井上英一（二十

八号）

二宮尊徳の真髓（巧妙な自由主義と社会主義との

並行家） 太田康平

1（三十八号） 2（三十九号）

二宮尊徳と寺門静軒 岸 達志（四十五号）

郷土の生んだ土の思想家―遺蹟をたずねて 穂坂行雄

（七十六号）

尊徳翁唱歌選稿について 和田次郎（九十三号）

報徳における分度の教え 奥津亀吉（百二十二号）

二宮尊徳の画像 岡部忠夫（百三十号）

二宮尊徳の俳句 和田 登（百三十号）

二宮尊徳翁 北村透谷（百三十四号）

三浦と二宮尊徳―三崎町の報徳仕法を通して

齊藤清一郎（百六十五号）

金次郎柵の免状と狂歌（百七十七号）

講演「二宮尊徳と小田原」 斎藤清一郎（百八十六号）

二宮金次郎の正月出奔 青木良一（百九十六号）

〈北村透谷〉

北村透谷（二十九号）

北村透谷の筆蹟（三十四号）

北村透谷家譜の探求 中野敬次郎

1 (百十六号) ～ 5 (百二十一号)

北村透谷生誕百二十年を迎えて 高田喜久三 (百三十四号)

特集北村透谷 (百五十六号)

北村透谷没して百年―短くて傷ましいその生涯と輝か

しい業績 高田喜久三 (百五十六号)

透谷碑のこと 岡部忠夫 (百五十六号)

北村透谷特集続編 (百五十七号)

北村透谷 係累覚抄 小野意雄 (百五十七号)

尾崎正さんに透谷祭六十年頃的事情を聞く 岡部忠夫 (百五十七号)

北村透谷 (百六十一号・百六十三号)

〈戦争体験〉

烏蘇里江・翠子の場合 隠岐威重

1 (百四十二号) ～ 5 (百四十七号)

今ふりかえるシベリア抑留 齊藤理一

1 (百四十三号) ～ 3 (百四十五号)

八十七年ぶりのお礼 「露国・日露の役俘虜のこと」

隠岐威重

前編 1 (百四十九号) ～ 9 (百六十号)

後編 1 (百六十四号) ～ 19 (百九十四号)

学徒動員の記録そして現在まで 堀江正樹

1 (百四十八号) ～ 2 (百四十九号)

三月十日東京大空襲を省みて 松本 巽

1 (百五十号) ～ 7 (百五十六号)

やがて消え去る戦中戦前派の世代から戦後生れの人々
におくる言葉 高田喜久三

1 (百五十三号) ～ 3 (百五十五号)

虜囚〔愁〕記 藤野 明

1 (百五十五号) ～ 6 (百六十一号)

想いは深し五十年前 富田千春 (百六十一号)
遥かなる霸王城―終戦から五十年、中国戦線の回想

星野幸一

1 (百六十一号) ～ 3 (百六十四号)

副官の戦死 佐々木勝衛

1 (百六十一号) ～ 2 (百六十三号)

芒々五十年 かつて戈とりし事 高田喜久三 (百六十一号)

トラック島の敗北 加藤 一

1 (百六十一号) ～ 2 (百六十三号)

生かされて 私の軍隊体験 磯部正人

1 (百六十一号) ～ 10 (百七十四号)

新玉小学校爆撃 中川禮子(百六十三号)

戦後五十年の夏 武田敏治(百六十三号)

五十年前のある風景―機銃掃射の中で 剣持芳枝(百六十三号)

戦局逼迫下―東京帝国大学に開設の科学研究補助技術

員養成所 川上秀子(百六十三号)

戦時学徒の落書き 岡部忠夫(百六十三号)

『遭難記実』―西南戦争に遭遇した一市民の記録

佐久間俊治(百六十六号)

ソ連軍の侵攻―東満国境・小豆山の死闘 松本茂雄

1 (百六十七号) 〳 8 (百七十六号)

赤い日が沈む―私のシベリア抑留生活 木曾正雄

前編 1 (百六十七号) 〳 4 (百七十号)

後編 1 (百七十二号) 〳 4 (百七十六号)

輸送船 鳥居金太郎(百七十二号)

唄と兵隊 高田喜久三(百七十二号)

明治の書簡でつづる「相田軍曹と日清戦争」

無残、澎湖島の戦い 瀬戸長治

1 (百七十五号) 〳 9 (百八十三号)

私の青春 菅沼 博

1 (百七十八号) 〳 14 (百九十六号)

曾我山の砲兵陣地と下曾我駅の空襲 市川一郎(百七

十九号)

脱出 天野 宏(百七十九号)

一枚の写真から―あの頃僕らは少国民だった

武田敏治(百八十四号)

田辺港引揚回想―現地の婦女子を引率して 井上 尚

1 (百八十四号) 〳 2 (百八十五号)

母校に証された昭和史の証―少年飛行兵 雲流るる果

に 武田敏治(百八十五号)

レイテ戦の別れ 金子中二(百八十五号)

〈補追〉五十年目の終戦―語り部として次代へ

井上 尚

空襲、そして母は 山田利治(百九十八号)

二度の命びろい―国産電器工場の爆撃と小田原空襲

矢尾忠一郎(百九十八号)

俺のシベリア俘虜記 青木秀雄(百九十八号)

ふるさとは遠きにおいて(上) 待ちわびる引揚船

植田博之(百九十八号)

折りにふれて 高田喜久三(掬泉)

1 (百九十八号) 〳 3 (二百二号)

戦後六十年―昭和二十年八月一日の便り 武田敏治

(二百二号)

〈民俗〉

民俗探訪・子供るす 木村 博（創刊号）

道祖神とどんど焼き 内田武雄（六号）

寝正月 木村 博（十八号）

天王講に参加して 井上英一（三十二号）

「このしろ」の葬式 広沢十五夜（四十一号）

道祖神の正月子供の行事について 神保明峰（四十七号）

大松明を惜しむ 清水専吉郎（四十九号）

組のお稲荷さま（山上稲荷社） 宇野応之（五十二号）

「末期の水」をめぐる 木村 博（五十七号）

ケンヤキ紙鳶考 杉山康輔（五十八号）

道祖神と御祭りについて（上） 神田太郎吉（七十二号）

我が郷土の、我が家の年中行事 西山銈太郎

1（百十七号）～7（百三十二号）

足柄平野のセーノ神さんの思い出 曾我保夫（百三十七号）

井細田の道祖神―風化した小正月の伝統行事

星野幸一（百十八号）

小田原地方の方言（百四十号）

亥の子ぼた餅 富田千春（百四十二号）

「漁師の天気予報」 石井富之助（百四十七号）

「大だいまつ」 石井富之助（百五十二号）

「線香まつり」 石井富之助（百五十三号）

「私の家の年中行事」 石井富之助（百五十四号）

「続・私の家の年中行事」 石井富之助（百五十五号）

成田の猪駒塚 岡部忠夫（百七十号）

根府川の福踊り 小野意雄（百七十三号）

新屋稲荷神社「お白狐様御開帳」 山口一夫（百八十八号）

小正月のだんご・まゆだま―聞き書きから知る物づくり― 石綿 勉（百九十二号）

昭和十四年 商家の元旦 田中 豊（百九十六号）

開成町田中地区の正月行事―道祖神太鼓の思い出―

井上忠義（百九十六号）

語り合った 我が家・我が故郷の年中行事―正月から

ひな祭りまで―語り部委員会（二百号）

話してください 我が家・我が故郷の年中行事（二）

―花祭りからお盆まで― 語り部委員会

〈聞書き〉

小田原御幸浜・養生館主 西村隆一氏に聞く

1（百三十八号）～7（百四十四号）

尾崎正さんに透谷祭六十年頃の事情を聞く（百五十七号）

号)

馬喰の門ちゃん(百六十九号)

ヤオマサ田嶋享氏の八百屋商道(百七十号)

『神静民報』功労者 近田茂芳氏に聞く

(上)(百七十四号) (下)(百七十五号)

足柄地方最後の野鍛冶 古川惣平さんに聞く

1 (百八十二号) 2 (百八十三号)

丸う田代勇輔さんに聞く 小田原かまぼこ今昔(百八十四号)

小正月のだんご・まゆだま―聞き書きから知る物づく

り― 石綿 勉(百九十二号)

秋沢達雄さんにあかりの話を聞く(百九十四号)

俺のシベリア俘虜記―青木秀雄(百九十八号)

〈映画〉

映画館特別号―オリオン座と東宝館の閉館に際し

石綿 勉(平成十五年八月映画館特別号)

私のキネマ劇場五十年(川口啓介さんに聞く)

青木良一(百九十五号)

霧の中の御国座 秋沢達雄(百九十五号)

私と映画―戦中、戦後の少年時代 植田博之(百九十六号)

私と映画―裏方の裏方たち 植田博之(百九十七号)

「映画」この楽しきもの―極私的メモリアル(邦画編)

平倉 正(二百号)

小田原で映画を初体験した 山田太一(二百一号)

「映画」この楽しきもの―極私的メモリアル(洋画編)

平倉 正(二百一号)

〈地名考〉

須藤町呼称の由来 永田清助(七号)

舟原の語源について 磯崎憲次(十九号)

地名と郷名―酒匂・和戸・足柄 立木望隆(四十七号)

「陣が道」という名の古戦場 星野幸一(百十五号)

酒匂「はんべの宿」について 川瀬春雄(百十七号)

諸白小路について 難波 明(百二十三号)

茶畑考 難波 明(百二十五号)

地名を歩く―春日山城 岡部忠夫(百三十二号)

郷土の地名―久野・町田 岡部忠夫(百三十四号)

酒匂かそれとも酒匂か 岡部忠夫(百六十一号)

酒匂という地名の起こりについて 川瀬春雄

1 (百六十四号) 2 (百六十六号)

酒匂という地名の読み 岡部忠夫(百七十一号)

酒匂史談(4) 川瀬速雄(百八十二号)

花の「ハナノキ」と小田原北条時代の「花ノ木町」に

ついて 額田好男(百八十九号)

人名にちなむ旧町名保存碑 澤田 英

1 (百九十三号) 2 (百九十四号)

足柄平野の小字―地名行脚 大脇良夫

1 (二百二号) 2 (二百三号)

〈世相〉

移り変る風俗 落合信一(六号)

大黒屋の話 永田清助(十号)

馬車(十号)

電気灯(十三号)

怪異綺談 門松利平(十五号)

小田原三者考 志波太生(二十一号)

人力車の発明 杉崎正五(三十五号)

線香代の伝説 内田武雄(三十七号)

小田原歳時記―四月(四十一号)

花柳界より見た小田原 神保明峰(四十四号)

明峰記のしり馬に乗って 内田武雄(四十四号)

明治百年小田原の謡曲界懐古 清水專吉郎(五十二号)

風流小田原の街歌 川瀬速雄(百十七号)

日中戦争とブラスバンド 星野幸一(百二十五号)

預金封鎖と新円切替にまるわる話 岡部忠夫(百二十

六号)

地価高騰余話 佐久間俊治(百三十二号)

今は昔 小田原サノサ節(百三十二号)

明治以後小田原劇場物語

1 (百三十五号) 6 (百四十号)

鑄掛屋物語―お袋の味と鑄掛鍋 星野幸一(百三十五

号)

小田原叢談 石井富之助

1 (百四十一号) 51 (二百三号)

今は幻の小田原競馬 岡部忠夫(百四十二号)

材木屋綺談 高田掬泉

1 (百四十二号) 27 (百七十二号)

資料紹介 岡部忠夫

小田原町各種組合(百四十五号)

小田原町各種組合(二)(百四十六号)

冠婚葬祭新様式徹底方策 足柄町(百四十七号)

砂糖及米穀特別配給(百五十一号)

銃後奉仕強化運動行事(百五十三号)

日華事変初の応召風景 岡部忠夫(百五十号)

現在川柳 高井喜雄「風喜洞」(百五十五号・百五十

七号)

折込み現代川柳 高井風喜洞(百五十八号・百五十九

号)

催しもの 158・159号

街並点描 161号

街いろいろ 164・165・166・167・168・169・170・172・174・

175号

街並み 169・170・171・172号

街さまざま 172・176・177・178・179・180・181・182・183・

184・185・186・187号